雪州会だより

歴史の島 壱岐の古墳と現代技術の粋 東京スカイツリー

東京壱岐雪州会は ふるさと壱岐市を応援します

会長ごあいさつ

雪州会１００周年に向け壱岐との連携強化

東京壱岐雪州会会長　万谷　正

私はこの度、東京壱岐雪州会役員会において会長に推挙されました。会員の皆様を始め多くの方々のご支援の下、微力ながら会の運営に励んでまいりますので何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

東京壱岐雪州会は本年で創立97年、3年後には記念すべき１００周年を迎えます。壱岐出身の関東在住者の親睦会として１９１７年（大正６年）に先人のご尽力によって発足し、1世紀近い今日まで諸先輩方のご努力で良き伝統と歴史を刻んで連綿と続いてまいりました。今後はまず創立１００周年に向けて会員各位の英知を結集して記念の節目にしたいと考えております。

私はこの４年間、当会副幹事長として総会案内の発送・返信はがきの集計などに携わりましたが、年々少子高齢化の波が当会にも押し寄せて返信はがきの戻りの枚数が減少しております。個人情報などの壁がありますが、１００周年に向かい地道に「声掛け運動」など知恵と汗をかき、当会の役割の一つである会員相互の親睦・交流を1人でも多くの関東在住の壱岐出身の皆様が参加していただけるように尽力致す所存であります。

当会のもう一つの役割は故郷・壱岐との交流を深め壱岐の活性化に協力することです。私は約50名からなる小さな会社を経営しています。当社では今回で４回目となる壱岐研修旅行を実施、楽しみました。社員一同、壱岐の大自然・壱岐焼酎・山海の珍味にすっかり虜になり、今では壱岐の大ファンです。これからも毎年、この壱岐研修旅行を実施していきたいと考えています。

こうした小さな積み重ねが社員の口コミなどで広がり、壱岐活性化の一助となれば幸甚です。今後は取引企業、金融機関等にも、もっともっと壱岐の良さを宣伝し、壱岐に足を運んでもらえるように努力致し、壱岐の活性化に繋げたいと存じます。

そのためにも壱岐と壱岐出身者の各地区壱岐人会とも密接に協力し、ふるさとの活性化に関しての活発な意見交換が大切だと考えます。そうした認識も踏まえて来るべき１００周年に向かい、会員の皆様と共に前進したいと思います。

（株式会社ファウンテック代表取締役）

［表紙の説明］
歴史の島・壱岐の古墳と現代技術の粋を集めた東京スカイツリー。まさに古代と現代のコントラスト。
双六古墳＝全長91m、長崎県下最大の前方後円墳で６世紀中ごろの建設とされる。石材を積み上げたドーム型天井は当時の技術の高さを示すとみられている。国指定史跡＝吉野弘一さん撮影
東京スカイツリー＝高さ634mを誇り今や東京観光のメーン・スポット。2012年５月22日開業。014年９月17日に来場者１億人突破。450mの展望回廊は関東一円を見渡す大パノラマ＝蟹澤隆志さん撮影

＊表紙の題字は雪州会第３代会長の眞鍋儀十翁筆

市制施行10周年
さらなる飛躍で輝く壱岐市へ

壱岐市長　白川　博一

東京壱岐雪州会の皆様には、日頃より、ふるさと壱岐の活性化に多大なお力添えを賜っており、心から感謝の意を表しますとともに、厚くお礼申し上げます。

本年3月、壱岐市は市制施行10年の節目を迎えました。この節目をひとつの契機ととらえ、将来に向けた新しいスタートとして、さらなる飛躍の年にしなければならないと考えております。

まず、市民皆様の健康、そして生命を守る壱岐市民病院については、医師確保と経営の独立採算体制を将来にわたって持続できるよう、長崎県病院企業団への加入実現に向け、誠心誠意強い決意を持って取り組んでおります。長崎県知事をはじめ、企業団、企業団構成市町など関係団体の深いご理解をいただき、来年4月からの企業団加入実現に、一歩一日着実に前進しております。

一次産業の振興については、昨年、JA壱岐市アスパラガス部会の販売額が3億円を達成。また、漁業者自らの活動で「壱岐市マグロ資源を考える会」が発足されるなど、生産者皆様のご活躍や積極的な取り組みが目立ちます。しかしながら、燃油・資材価格の高騰、就業者の高齢化や後継者不足など、取り巻く環境は、依然厳しい状況にありますので、農水産物のブランド化と六次産業化を推進し、一次産業の振興に一層取り組んでまいります。

観光・商工振興については、昨年4月から20％のプレミアム付き商品券「しまとく通貨」の販売を開始し、交流人口の拡大を図っております。魅力あふれる壱岐を全国にPRすべく、メディア等を活用し、今後も各方面へ積極的に情報発信を行ってまいります。

そして、本年10月、長崎県での開催は実に45年ぶりとなる国民体育大会「長崎がんばらんば国体」が開催されました。壱岐市を舞台に成年女子ソフトボール競技と自転車競技ロードレースが開催され、各県代表の日本の一流選手の競技に島全体が躍動し、記憶に残る素晴らしい大会となりました。来島された皆様を最大限のおもてなしの心でお迎えし、壱岐の魅力を十分に感じていただけたことと思います。

平成22年3月の開館から4年余りが経過した一支国博物館は、入館者数が本年8月に予定より約3ケ月早く50万人に達しました。これは、雪州会の皆様にも、ふるさとツアーの企画や周知を図っていただくなど多大な協力をいただいた結果であり、今後も、壱岐市観光の中核施設、そして、教育文化の拠点として活用し、壱岐市の活性化に繋げてまいります。

郷ノ浦の大島・長島・原島の三島小学校については、現在、大島に本校を、長島と原島のそれぞれに分校を置いておりますが、来年の4月から、長島分校と原島分校を閉校し、大島本校を三島小学校とすることに決定しております。これにより、50年間続いた本校・分校の3校体制が本校1校体制となります。今後、通学方法等についての課題解決に努め、一つの校舎に通う三島の子供達が、安心して楽しく勉強できる環境を整えてまいります。

この他、航路運賃低廉化・JR並運賃の実現、福祉・子育て支援・保健の充実、雇用、建設、消防、教育、防災対策など、広く市民生活を守るため、将来を見据えた市政運営に取り組んでまいります。

結びに、東京壱岐雪州会の益々のご発展と、万谷新会長様はじめ、会員皆様のご健勝、ご多幸を心から祈念いたします。

データは語る―ふるさと壱岐は今…（平成26年度）

壱岐の総人口	28,615人（過去最高時　51,765人＝昭和30年代）
内　　訳	男性　13,645人：女性　14,970人
内65歳以上	男女計　9,658人（全人口比　33.8％＝全国平均　25.0％）
壱岐の総世帯数	11,673世帯（過去最高世帯数　11,716世帯＝平成25年）
壱岐の年間観光数	557,919人（平成25年１月から12月）
壱岐市の年間予算	平成25年度決算（一般会計・歳出）　233億9,904万円
	平成26年度当初予算（一般会計）　210億2,500万円

（注）1. 総人口、人口内訳、65歳以上、総世帯数は平成26年７月末現在
2. このデータは壱岐市役所の協力により東京壱岐雪州会が作成

壱岐農業の2つの目玉
米の乾燥調整施設の整備が完了
壱岐牛の商標登録取得も実現！

壱岐市農業協同組合　代表理事組合長　**川﨑　裕司**

東京壱岐雪州会会員皆様には、かねてより多大なご支援を頂きまして厚く御礼を申し上げます。さて、今年は農業関連でうれしい出来事が2つありました。

ひとつ目は、米の乾燥調整施設の一本化に伴う施設整備が無事に完了したことです。島内に3か所あった米の集荷施設を集約し、集荷能力や処理能力を増強いたしました。これにより、農家のみなさんの利便性の向上と米の品質の更なる安定が期待できます。また、産地のブランド化や壱岐市の農業振興の大きな起爆剤ともなりえます。早期米の「つや姫」、普通期米の「にこまる」など、これからも美味しい壱岐の米を応援して頂ければ幸いです。

ふたつ目は、壱岐牛の商標登録が取得できたことです。地域団体商標登録ということで国からのお墨付きを頂きました。豊かな自然環境の下、繁殖農家が愛情を込めて育てた子牛を壱岐島内の肥育農家が購入し、さらに磨きがかけられ〝壱岐生まれ・壱岐育ち〟だけが「壱岐牛」として出荷されるのです。これを機に更に多くの人に愛されることを願っています。

壱岐観光物産展

来年3月ＪＡ壱岐市も合併50周年

壱岐市は3月に市制10周年という節目を迎えました。来年3月にはＪＡ壱岐市も節目である合併50周年を迎えます。これからも壱岐市と力を合わせ、農業で壱岐の島を盛り上げ、その発展に貢献できるよう、頑張ってまいります。

今後とも壱岐産品をご愛顧賜りますよう宜しくお願いいたしますと共に万谷会長様をはじめ、会員皆様のご健勝ご多幸をお祈りいたしましてご挨拶といたします。

大勢の人出で賑わう農協まつり

壱岐に移住して18年
豊かな自然環境の暮らし夢見て
多くの生き物が平和に生きる島

いちご栽培農家　神山　美奈

今年の夏、息子が初めて里帰りをしてきました。3月に壱岐高校を卒業し、大学へ進学した息子は、東京の祖母の家で生活を始めたところです。

思い起こせば、私達が壱岐へと移住したのは息子が1歳半の頃の平成8年12月のことでした。中古で手に入れた青い軽トラックに荷物を満載し、夫がハンドルを握り、私は子どもをひざの上に乗せて新天地へと向かったのでした。

「よう遠方からこらっしゃったな。ばって、なしてまたこげん何もなかとこに?」―会う人会う人、皆同じ質問をします。東京から親戚も知人もいない離島へ、農業の経験も全くない一家がある日島にやって来たことは、島でずっと暮らしてきた人達にとって、不思議でしかたないことは当然ですね。

「何もなかとこ」―島の人達は、よく壱岐をそう表現しますが、よくよく考えてみると、とてもおかしな言い方ではないでしょうか。ここ壱岐の島には、これだけ多くの生き物が平和に生き続けているのですから。

私達が田舎へ引っ越そうとした最大の理由は、この「何もない」と人が言う、自然が豊かな環境で暮らそうと強く思ったからです。「何でもある」都会では、本物を捜すことを必要としません。何かを丹精込めて作ったり育てたりすることも又、あまり必要ないのが都会です。そういう生活とおさらばして、自分を取り戻したい、そうしなくてはいけない所に確かに私は居たと思います。その頃、子どもが授かり、本物を日々、黙って見せてくれる自然の中で、親子共々育つことができたらと思ったことも、移住を決めた大きな要因でした。

ハウスで無農薬のいちご栽培

現在、私達夫婦は、ハウスでいちごを栽培しています。「普通においしい農作物を育てていきたい」―そこが私達のスタート地点です。農薬に頼らずに、作物（自然）の力が最大限発揮できる元気ないちごを育てたいという思いは、今も変わっていません。

とは言え、技術的に進歩した訳ではなく、近年の農業用資材の高騰と、生産物の単価安で生活していくのはやっとこさの状態ではあります。でも、いちごを食べてくださる方達の、「おいしいね。今年も待ってたよ。」「安心して食べられる。」といった声は、私達にとって何よりの喜び、そして力になるのです。近頃は、他の野菜も少しですが育てて、地場産を扱う島の店屋へ出荷をしています。

農業は決してもうかる仕事ではありません。しかし、「食べる」という全ての人に深く関係する責任ある仕事です。長く農業に携わっている方々の、あの優しくて素敵な笑顔が私は大好きです。都会で暮らす人達も、にわか百姓を経験しに、島に足を運ばれることをお勧めします。様々なことで疲れている心と体に、「何もない」島は見えないお土産を持たせてくれることと思います。

季節が来れば赤い実をつけ、立派に育ってくれるいちごに感謝を忘れずに、これからも精進していきたいと思っています。

（東京都出身＝勝本町在住）

〈壱岐を旅して〉

古墳など密集する貴重な歴史の島
一支国博物館は素晴らしい展示品

長崎県人会会長　相川　賢太郎氏に聞く
（三菱重工業相談役・元社長）
（聞き手・東京壱岐雪州会名誉会長　牧山康敏）

壱岐の思い出を語る相川さん

昨年（平成25年）9月、私は初めて2泊3日の壱岐旅行を楽しんできました。予想以上に古墳などの遺跡が密集しているのには驚きました。一支国博物館も素晴らしいですね。新鮮な魚も壱岐牛も実に美味しい。歴史と自然豊かな島を実感しました。壱岐の人はこの島の歴史や自然の良さを理解し、島外の人にもっとPRされたらいいですね。

私は五島や対馬、佐渡など大概の島には行っています。ただ、どういう訳か、壱岐にだけは行く機会がなかった。昨秋、やっと夫婦で壱岐に行き長年の夢が叶いました。高速艇のジェットフォイルで午後、壱岐に着き、そのまま宿泊先の湯本の旅館に直行。温泉につかり夜は新鮮な魚を存分にいただいた。女将さんも熱心に活発に対応してくれましたね。

2日目は朝9時から夕方6時までタクシーでたっぷり壱岐を隅々まで見学しました。それにしてもタクシー料金が安く親切なのは驚きでした。運転手さんも車から降りてよく説明してくれました。ただ注文があるとすれば古墳などもっと詳しく見たいのではないかお客の希望を聴くといいですね。私の場合は原の辻遺跡など見たいところを素通りしそうになったので止めてもらって中に入って見ると大変素晴らしいことがわかった。紀元前の遺跡でした。

一支国博物館は黒川紀章さんのデザインだそうですが、外観もさることながら展示品も歴史ある土器など素晴らしい。立地場所もよく、博物館から原の辻遺跡などが一望のもとに見渡せるのも良いですね。壱岐にこんな立派な歴史博物館があるなんて地元の皆さんはもっとその価値を知られると良いですね。

私は古代歴史に興味があるので九州各地や奈良などの遺跡もよく尋ねます。壱岐は古墳など遺跡が密集しているのに驚きでした。しかも紀元前のものが多い。九州でもこんな所は珍しいですよ。魏志倭人伝などにも一支国のことは記述されていますし、歴史を感じますね。

古墳　原の辻遺跡で

砲台跡にも行き、地下からも上からも眺めましたが、こうした遺跡や古墳など壱岐ではよく整備されていると感心しました。この大砲は長崎造船所で造った軍艦を改装の時に持って来て流用したもので大変懐しく思いました。余談ですが、対馬にも壱岐と同じ40センチ口径の砲台跡がありますが、砲台跡はほとんど整備されていませんでしたね。

壱岐の名所は目いっぱい案内してもらいました。壱岐はむぎ焼酎発祥の地と言われているので出来れば焼酎の醸造現場も見てみたかった。道路沿いの焼酎メーカーの前を通ったのに残念でした。酒は余り強くないので飲みたいとは思いませんが。

2日目の夜は湯本のホテルに泊まって壱岐牛を存分に堪能しました。やはり壱岐牛は評判通り旨い。

今回の壱岐旅行で感じたことは、こんな素晴らしい遺跡が密集している歴史の島の魅力について著名な歴史学者などに依頼して壱岐について

の「本」を書いて紹介してもらい、それを活用して壱岐をＰＲできないですかね。そしてもっと多くの人たちに宣伝していく方法もあるのではないでしょうか。あれほど歴史のある島をもったいないですよ。

〈取材を終えて〉

いつまでも旺盛な探求心

今回の壱岐の旅を通じて相川さんが最も感じたのは古い遺跡が密集しているということ。紀元前の遺跡がこんな小さな島にこれほど多く残っている現実を目の当たりにして驚嘆の様子がありあり。この島をもっと多くの人に知らせる必要を説く。心強い限りです。ご夫妻で多く撮影した写真をきちっと整理して説明にも熱が入る。肩ひじ張らない1時間余の取材も当方が学ぶことばかりであった。

相川さんは大の写真好きでもある。会社の相談役室には国内外で自ら撮影した見事な写真が展示してあり87歳の今もパソコンを駆使してその処理に当たる。探求心は衰えを知らない。

〈壱岐を旅して〉

「じっくり旅を楽しむ人」に薦めたい島
歴史ドラマ感じる博物館や神秘な夜神楽

埼玉県川越市在住　吉川　はつ美

昨年9月27日は心躍らせ3泊4日の壱岐への第一歩を踏み出した日でした。近所の壱岐ご出身のご主人のふるさとでしたので、たびたび壱岐のお話を伺うことがあり、機会があったら訪れたいと思っていました。

そんな折、たまに利用する農協観光のふるさと倶楽部にツアーの募集があり〝これだ〟と思い、妹と参加する積りでしたが「船に弱い」ということで断られ、ならばということで娘を誘い参加しました。

長野の田舎育ちの私にとって壱岐は、島を感じさせない豊かな島でした。車窓からの広大な平野の穀倉地帯、上陸した辰の島から眺めた美しい海、様々な歴史ドラマを感じさせてくれる一支国博物館、夜神楽に引き込まれ神秘的な世界の体験、そして島の方々に教えていただいて作った島豆腐の美味しさ、食材を皆で調達し、作った「ひきとおし鍋」、ブリの天ぷら、いかのお刺身、うに飯等々、お腹も胸もいっぱいになり、宿に戻っても溢れる満足感は今でも忘れません。

豆腐作りやすきとおし鍋
体験料理で美味しさ満喫

観光地をただ慌ただしく巡る旅ではなく「じっくり旅を楽しみたい」「地元の方々と触れ合いたい」という旅人たちには、ぴったりの旅でした。それと焼酎以外にも若い人やお酒を飲まない人向けの壱岐ならではの、お土産があったら、と思いました。

壱岐神楽

例えば地元産の大豆や海水塩のにがりを使った手作り豆腐セットや、ひきとおし鍋セットのようなものがあったらいいなと思いました。

私自身も友人たちに伝えています―「素敵な島だよ！一度は行った方がいいよ」と。参加した50名が一人に伝え、二人に伝え、リピーターが増えることを願っています。

素晴らしい思い出を有り難うございました。

〈壱岐を旅して〉

壱岐は日本で最古の歴史の「国」
風光明媚な海岸や穏やかな風景

東京諫早会副会長　玉木　國隆

「故郷は遠くにありて想うもの」というが、諫早にいる時は遠かった「壱岐」が東京に来た事によって近い所になった。

平成22年東京壱岐雪州会の役員の方からお誘いを受け、初めて壱岐へ行く機会を得た。「雪州」という美称に憧れて一度は行ってみたいと思っていた事が実現した。

壱岐は長崎県なのに福岡県の博多港からジェットフォイルで渡った。約1時間の距離。長崎港より博多港の方が近くて便利なのである。旅から帰った後、歴史書を調べてみたら、明治政府は壱岐と対馬を強引に長崎県に組み入れてしまったという。交通面、経済面等から考えると福岡県に入れた方が良かったのではないか。今日でも壱岐・対馬の有志の人は福岡県に転入運動をされているそうだが分かる気がする。

「古事記」の冒頭に国生むの話があり「次に壱岐を生めり」とある。古い中国の「魏志倭人伝」にも「一支国」つまり「壱岐国」の話がでてくる。壱岐は日本で最も古い歴史を持った「国」であった。単なる「島」ではない。この事しか知らずに初めての壱岐観光は感動の連続だった。

●一支国博物館

著名な建築家の設計による博物館で、壱岐のみならず長崎県全域の考古品を集めて展示されている。壱岐は県の歴史博物館を設置するに最もふさわしい場所である。博物館は原の辻遺跡が一望に見渡せる所にあり、紀元3世紀頃の弥生時代後期に離島の壱岐に米の伝来と豊富な鉄器文化があった事を教えてくれる施設である。

●松永安左エ門記念館

「電力の鬼」と呼ばれ、今日の電力業界の体制を確立された松永安左エ門翁は壱岐の出身だ。偉大な先達の生家が町ぐるみで守られているのも壱岐ならではないか。

思うに東京壱岐雪州会の方々も見事に松永安左エ門の後継者として、一国一城の主が多く多方面で活躍されている。人間的にも素晴らしい方が多い。むべなるかなである。「壱岐の人は良かねえ!!」と強く思い、何かと仲間に入れて貰って私も幸福である。大先輩に感謝！

●河合曽良の墓

俳句をたしなむようになって松尾芭蕉の「奥の細道」に関する本を研究していたら、同行した河合曽良が晩年、巡見使として壱岐勝本の中藤家に一泊し病に倒れ、そこで亡くなった。中藤家の墓地に曽良は眠っているそうな。親切な人が昔から壱岐にはいたのである。この故事だけでも壱岐はやはり素晴らしい国である。

●島巡り観光遊覧船は？

海が綺麗な壱岐は「猿岩」を始め風光明媚な海岸線と穏やかな風景を持っている。海上から見てみたい。その為に島巡りができる観光遊覧船があったらいいなあと思った。うまい魚とおいしい壱岐焼酎を飲みながらの船遊びは最高の観光と思うが如何？

壱岐の卜占の神をまつる月読神社、幕末まで平戸藩に統治され、壱岐にしかない「触」という行政区分の呼称、壱岐は歴史の宝庫であり、民話の宝庫である。観光マップを見ながら、もう一度ゆっくり歴史探訪をしてみたいと願っている。

「壱岐島ごっとり市場」を展開中
外国人客誘致で福岡市とも連携

壱岐市観光連盟会長　長嶋　立身

歴史と伝統に培われた東京壱岐雪州会の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。常日頃からふるさと壱岐に思いを馳せながら、ふるさと振興にご期待をして頂いておりますことに、心から感謝申し上げます。

私ども壱岐市観光連盟にとりまして、今夏の異常気象（8月の週末に2週続けての台風襲来、そして又ゲリラ豪雨の連続）は、夏型観光地として大変な痛手でありました。そのような中で、様々な企画展等の開催努力をされております一支国博物館の入場者数が、早くも50万人を突破いたしましたことは大変有り難く、そして又嬉しく思います。

さて、観光連盟にとりまして、平成26年度は「がんばらんば長崎地域づくり支援事業」が最終年となり、「壱岐島ごっとり市場プロジェクト」を展開いたしておりますが、体験メニューの造成やウニ祭り等の企画プランに併せた情報を発信し、福岡市との連携強化に努めながら、基盤の整備を行っております。更に国内何処の観光地も国内旅行客は、ジリ貧状態でありますことを鑑みて、白川市長が外国人観光客の誘致を目指す「インバウンド元年」を提唱されているとおり、インバウンド事業に力を注いでおります。一昨年まではゼロに等しかった外国人観光客が、本年1月から8月までの宿泊客が約230人を超えており、今後もツアー造成の予定もあり、伸びると予測されます。国内・国外を問わず、知名度がまだまだでありますから、本年4ヶ国語の観光PRDVDの作成や、同じく4ヶ国語の観光パンフレットも作成いたしました。8月20日には、中国湖北省の高校生16名と引率者4名が来島し、壱岐高等学校の生徒と交流を深めるとともに、体験活動も行ないました。このインバウンド事業につきましては、長崎県のご支援ご協力は勿論ですが、九州最大の受入数であります福岡市のご支援ご協力は有り難く、福岡市を訪れる外国人観光客に、都市にない癒される観光地として、壱岐のご紹介を頂いております。それとともに、修学旅行の誘致につきましても、都市と田舎の連携と言う形で、共同誘致作戦を展開いたしております。

平成20年の東京オリンピックまでは、外国人観光客の来日は増加の一途を辿ると考えられますので、受け入れ態勢も含めて、島民の方々の理解と協力をいただきながら、誘客に努めて参りますので、今後とも東京壱岐雪州会の会員の皆様のご支援も併せて賜りますようお願い申し上げます。

おわりに、まもなく創立百周年をお迎えになられる東京壱岐雪州会の益々のご隆盛と会員皆様方の益々のご多幸を祈念申し上げます。

壱岐の寒ブリプラン

開催期間　平成26年12月1日（月）～3月15日（日）
【12月28日（月）～1月7日（水）を除く】
（1泊2食付・博多ー壱岐間往復フェリー代金含む）
フリープラン　**21,700円～26,700円**

壱岐島女子旅プラン（仮称）

開催期間　平成27年1月9日（金）～3月15日（日）
（1泊2食付・博多ー壱岐間往復フェリー代金含む）
フリープラン　**22,200円～27,200円**

壱岐島への旅行に関するお問い合わせ・お申込み
一般社団法人 壱岐市観光連盟
会長　長嶋　立身
〒811-5133 長崎県壱岐市郷ノ浦町本村触683-2
営業時間：平日8時30分～17時15分
定休日：土・日・祝日・年末年始
長崎県知事登録業者　地域-172号
HP　http://www.ikikankou.com/
TEL 0920-47-3700　FAX 0920-47-5302
長崎・壱岐 ごっとり 市場 壱岐市観光連盟

壱岐市制施行10周年記念式典
５００人出席し３月盛大に
東京壱岐雪州会も表彰

壱岐市が平成16年3月に市制施行して10周年に当たる今年3月1日、郷ノ浦町の壱岐文化ホールで壱岐市制施行10周年記念式典が盛大に開かれました。本県選出の国会議員、中村知事、白川市長・壱岐市議ら約５００人が出席。

式典では地方自治功労、社会福祉功労、優良団体などが表彰され、東京壱岐雪州会は優良団体賞として他の福岡、関西、東海壱岐の会などと共に表彰されました。雪州会は平成18年度から壱岐市の植樹促進を目的に毎年、20万円ずつ寄付しているほか、壱岐市関係者（団体）の関東における行事などを積極的に支援していることなどが評価されたものです。（写真は記念式典と表彰を受ける山内賢明雪州会名誉会長）

雪州会　今年度も壱岐市に植樹緑化の寄付
深江運動公園に壱岐山ざくら１２０本植樹

東京壱岐雪州会は平成26年度も壱岐市に植樹緑化寄付を行います。雪州会活動の一環で平成18年度から毎年実施。寄付額は20万円。10月26日開催の雪州会総会の席上、牧山会長から白川市長に目録贈呈。

壱岐市から委託を受けて壱岐市林業研究同志会では平成25年度分の寄付金も活用し、今年は2月28日に深江運動公園に「壱岐やまざくら」１２０本を植樹しました。

この植樹祭には田河小学校の生徒の皆さんが「植樹体験学習」として参加したそうです。

立派に生長して見事な花を咲かせ、大勢で「花見」を楽しめる日を期待しましょう。

（東京壱岐雪州会事務局）

植樹体験学習で励む田河小の生徒

国との連絡調整・情報収集に全力
壱岐の観光や特産品など積極ＰＲ

長崎県東京事務所所長　山田　芳則

本年4月1日に東京事務所長として赴任いたしました。東京は12年振り2回目の勤務となり、都心の街並みの変貌振りに驚いております。

万谷会長様はじめ東京壱岐雪州会の皆様には、日頃から会員相互の親睦を深められ、様々な活動をされておりますことに心から敬意を表します。また、雪州会の皆様には日頃からふるさと長崎県の応援団として、様々なご支援・ご協力をいただいておりますことに改めて感謝を申し上げます。

壱岐牛・新鮮なウニなど魅力いっぱい

壱岐市にはこれまで仕事で何度か訪れていますが、自然が豊かで、原の辻遺跡などの史跡が多く、観光地や温泉もあって、海の幸や山の幸に恵まれているというのが私の印象です。豊かな自然に育まれた新鮮な魚やウニ、壱岐牛などの美味しい食べ物は壱岐を訪れる魅力です。中でもボルドーワイン等と同じくＷＴＯにより地理的表示の産地指定を受けた焼酎は、銘柄ごとに特徴があり味わい深いものがあります。

東京事務所では、長崎県と国との連絡調整や情報収集、本県への企業の誘致などに加えて、本県の観光や物産のＰＲにも取り組んでいます。

具体的には、首都圏の雑誌や新聞、テレビなどに対し個別訪問をしながら本県の魅力をお伝えし、取り上げてもらうよう積極的な広報活動を行っています。また、首都圏の百貨店等における長崎県産品を展示販売する物産展や、ホテル等での県産品を使った料理フェアを開催しています。このような取組の中で、壱岐の観光や物産についても積極的にＰＲをさせていただいています。

長崎よかもんショップも好評

今年3月には四谷駅の近くに、長崎県のアンテナショップ「長崎よかもんショップ・四谷」がオープンしました。これまでは東京で県産品をまとめて購入できるお店がありませんでしたが、よかもんショップでは長崎県のお菓子や長崎四季畑などの農産加工品、平成長崎俵物などの水産加工品、酒・焼酎など様々な品物を取り揃えており、長崎の逸品が東京にいながら手に入ります。壱岐焼酎はもとより、リキュール、梅酒、カレー、ウニなど、壱岐の特産品もありますので、雪州会の皆様にも是非、足を運んでいただきご利用いただきたいと思います。

大勢の人で賑わう四谷の「長崎よかもんショップ」

東京事務所としましては、ふるさと長崎県の発展のため、今後とも壱岐をはじめ長崎県の観光・物産のＰＲに努めてまいりたいと思いますので、引き続き雪州会の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

結びになりましたが、東京壱岐雪州会の今後益々のご発展と、会員皆様のご健勝・ご多幸を心からお祈りいたします。

長崎県産品の物産展は盛況

〈趣味あれこれ〉月下美人

今日も咲け咲け　明日も咲け 一夜の花の命に丹精込めて

東京壱岐雪州会理事　村井　有

月下美人の花は一夜のはかない命です。朝のつぼみの膨らみの大きさから、今晩には咲くと判断できます。満開は夜の10時から11時ごろです。夕方から飲み友達を集め、これを待ちます。つぼみの先端が開きはじめ、三分の一位まで開いた後は一気に咲きます。このとき、集まった連中は拍手です。次の朝には、ちょっとしおれた格好でつぼみの姿に返ります。

今年は2鉢で15個の花も

今年は2鉢で15個の花をつけましたので、2週間余にわたり愛でることができました。一年間の労苦が報われるときです。

月下美人はサボテン科ですので、育てるのは難しくはありません。ただ、夏と冬の心遣いは違います。夏は日光浴をさせ、冬は部屋に入れ室温5度以上を保ちます。以前に枯らしたことがあります。10月の末に日光浴をさせようと庭に出し、そのまま取り込むことを忘れたのです。朝霜に打たれて枯れてしまいました。根まで全体が死んでしまいますので再生することはありません。マンションに住む友人が、玄関に置いていたのに枯れてしまったと話してくれました。冬の保温は大事です。

夏は庭に出しますが、日に当てすぎると日焼けして葉枯れします。家の東側に置いて午前中だけ日が当たるようにしています。夏はせっせと水と液体肥料をあげます。庭に出すと害虫の心配をします。ある年に桜の木にアメリカンシロヒトリが群生したことがあります。このとき月下美人の葉っぱにも卵を産み付けたのです。この葉は切り取らざるを得ません。また、鉢を直に地面に置いたときに鉢の底からナメクジが入ってしまいました。ナメクジは若い根を食い荒らすので月下美人の成長が止まってしまいます。コンクリートブロックを用意して、その上に鉢を置くことで解決しました。

あれこれ苦労をするのも一夜の花を観たいがためです。いい都都逸がありましたね。

酒飲みの
　心はいつも
　花ならつぼみ
　今日もサケサケ
　明日もサケ

この心意気で育てれば、きっときれいな花を咲かせるでしょう。

月下美人の満開は夜の10～11時頃

〈趣味あれこれ〉今はデジタル一眼レフカメラ

観察眼を養い、行動範囲を広げる
故郷の良さを発見するツールにも

杉並学院中学高校校長　**吉野　弘一**

団塊世代である私の少年時代は、趣味という言葉は似つかわしくないほど、壱岐の自然を相手に遊び回る毎日でした。メジロ捕り、魚釣り、魚突き、城作り、地罠かけ、陣取り、コマ回し、パチ、かくれんぼ、竹馬、凧あげなどなど。その頃の無趣味が影響してか、社会人になってからは色んなことに挑戦しました。1年以上続けたものは、長崎県教員時代（お能と仕舞、ピアノ、ソフトボール、硬式テニス、ゴルフ）。文部科学省時代（龍笛、フルート、デジタルカメラ）。杉並学院中学高校時代（デジタル一眼レフカメラ、ビデオ、社交ダンス）。と、あれやこれや取り組んできました。

趣味の中で、私を大きく変化させたのはデジタル一眼レフカメラでした。それまでは、日本全国及び世界の国々へ出かけることが多かったことから、携帯型デジタルカメラで撮影をしました。それも出張先の様子や風景を記録に残すという程度でした。

生徒の素敵な表情をカメラにプロ級仕様のもので腕磨く！

しかし、杉並学院では、部活動、文化祭、体育祭、移動教室、修学旅行など生徒と共に行動することが多くなりました。元気で溌剌とした素敵な表情を見るにつけ、その姿を記録に残してあげたいと思うようになったのです。そこでデジタル一眼レフカメラを手にしましたが、思う作品に行きつかないため、上級カメラに望遠レンズと言うようにプロ級の仕様へと転換していきました。目の前の姿や風景を単に写すというよりも、より活動的な姿に追ったり、より美しい風景を探しまわるなど行動範囲が広がっていきました。

お正月とお盆は毎年帰省しますが、島の過ごし方もカメラが大きく変えてくれました。島の隅々まで足を運ぶようになり、島の広さと自然や文化の多様性を知るとともに、美しい風景、地層、生物などをカメラに収めるようになったのです。そして、素敵な地に何度も足を運ぶのは、四季、朝、昼、夕によりカメラの対象物が違う姿を見せるからです。

長い人生の中で、趣味はあれこれ変わります。が、長続きをさせ技術を向上させてくれるのは、趣味活用の場があること、人の役に立つことではないかと思います。私がとった風景写真は、杉並学院ホームページの背景画像に利用されています。また、壱岐島の様々な写真は、壱岐商高関東同窓会総会においてスクリーンに紹介し故郷を思うひと時となっています。

（東京壱岐雪州会副会長）

勝本のペーロン大会

向田邦子の世界に魅せられて…
ゆかりの地訪ね小説の奥を読む

東京壱岐雪州会会員　篠崎　彩子

夫（靖氏＝長崎県東京事務所勤務）の異動で2度目の東京暮らしが始まりました。久しぶりの東京は、相変わらず目まぐるしく、つい油断すると時間の速さに流されてしまいそうです。そんな東京で敢えてゆっくり、じっくり楽しみたいと思っていることがあります。私が常日頃、大人の女性としての生き方のお手本としている「向田邦子さん」を感じるお散歩です。時間があれば、彼女のゆかりの場所を訪れることにしています。日本を代表する脚本家、エッセイスト、小説家として、今もなお大勢の読者から支持をされており、向田本も版を重ね続けています。平凡な人たちの普通の暮らしの中にある悲喜交々の出来事が、上質で洒落っ気たっぷりな表現とともに、時にはシリアスに、時にはユーモラスに描かれる向田ワールドに私自身も魅了されています。作品を読むにつれ、彼女自身の生き方が知りたくなり、次第に私の目指す女性像が見えてきました。彼女と私の母が同世代で、2人とも昭和56年に他界したという所にも何か奇妙なご縁を感じるところがあります。

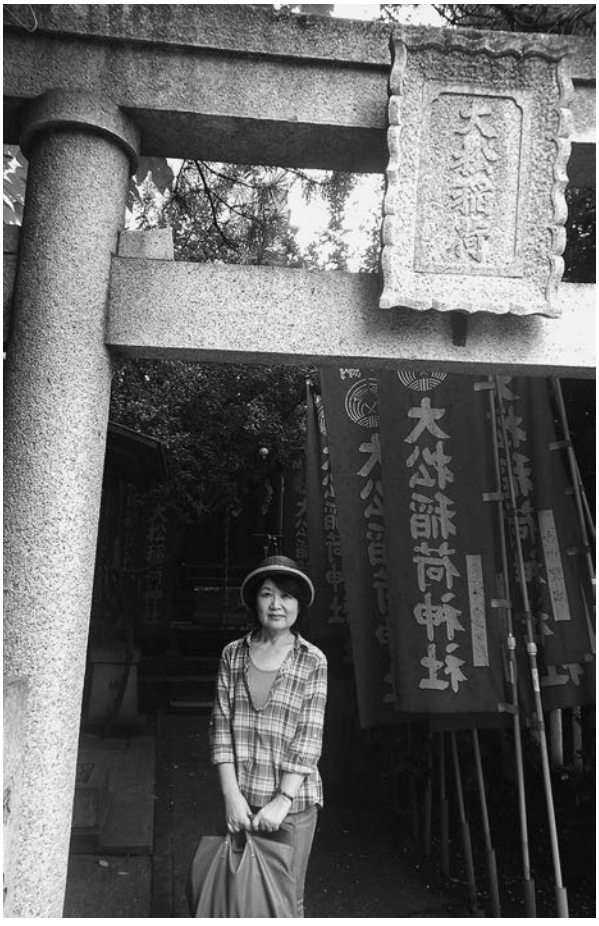
彼女紹介の器・食べ物・絵画等に興味も

さて、都内で最初に訪ねた場所は、昭和56年8月、台湾での飛行機事故によって、終の棲家となってしまった南青山のマンションでした。マンションの隣には、名前は大松と大きいが小ぢんまりとした社のお稲荷さん、と茶目っ気たっぷりに彼女の著書に紹介されていた神社（写真）をこの目で確認した時は、感激しました。作品の中では、人形町周辺のお店もたくさん紹介されています。特に、彼女がよく通った喫茶去快生軒では、彼女のお気に入りの席で、いつも注文していたというマーマレードトーストをいただきました。当時はハイカラなスイーツだったのかな?今ならどんなメニューを注文されたのかしら?と興味津々でした。骨董通りや青山通りを散策すると、お洒落な街並みに溶け込んでいる向田さんが今にも前方から歩いて来るようです。

都内のこうしたスポットだけではなく、彼女が紹介する器や美味しそうな食べ物、絵画などにも興味を持つようになりました。私には手の届くような品ではありませんが、彼女の気の利いた小物使いや、普段使いの器選び等を参考にさせてもらっています。

しかし、なんと言っても、彼女の魅力は、凛とした雰囲気と、ごく普通の当たり前の仕草に見られる優しさに溢れた心配りではないでしょうか。ひょっとしたら、彼女の生き方や作品の中に、両親との暮らしやご近所に人が随分お住まいでまだ賑やかだった当時のことなど、いとおしくも懐かしい私自身の記憶を重ねているのかもしれませんね。

始まったばかりの「向田さん歩」ですが、東京にはまだまだゆかりの地が沢山ありますので、時間の許す限り、向田さんを感じる「彩さん歩」で東京を楽しみたいと思います。



向田邦子はこの神社の隣に住んでいた

壱岐の特色活かす博物館づくり
8月に50万人目の入館者達成！

壱岐市立一支国博物館　館長　須藤　正人

東京壱岐雪州会の会員のみなさまにおかれましては御清栄のこととお喜び申しあげます。いつもふる里の一支国博物館にお心をお配りいただきありがとうございます。

博物館では平成26年8月17日の午前11時に入館者50万人目のお客さまをお迎えすることができました。篠崎由衣さん（小学校5年生・10歳）で、ご両親と初めての壱岐旅行を楽しんでおられました。記念セレモニーには白川博一壱岐市長も出席され、市民を代表して、感謝とお礼の言葉をかけられました。

由衣さんは福岡県大牟田市に住むお嬢さんで、目がキラキラと輝いていました。お父さんは吉野ヶ里遺跡などの史跡や、博物館めぐりがお好きなかたでした。そばで夫と娘の会話を楽しそうに見まもる、やさし気なお母さんも印象的でした。

みなさまご存知のように、平成の町村合併で平成16年に誕生した壱岐市は「海とみどり、歴史を活かす癒しのしま、壱岐」を島の将来像に定め、歴史文化や自然による島おこしに踏み出しました。そして平成22年、壱岐全体の地域振興の拠点として一支国博物館が開館しました。

「お客様に良い思い出」を目標に

私は一支国博物館の活動成果の良し悪しが、壱岐島の経済の好不況のバロメーターになると思っています。私たち博物館関係者は、日々の活動に明るく、元気で、さわやかに取りくみ、来館されたみなさまに良い思い出を持ってお帰りいただくことを、日々の目標、課題としてまいりました。これは将来にわたる私たちの永遠の目標であり課題と申せます。

県下の博物館が参加する年一度の会があります。それぞれの地で活動する人々が自慢の展示や企画展の苦労、苦心を発表しあいます。日々の活動の報告であり反省の場にもなります。反省の機会を持って前進してゆくことが博物館活動の方向性を決定し、「地域の特色をいかに活かしきるか」という大きな課題が見えてきます。

壱岐島の特色や一支国博物館が持つ機能を活かしきった、魅力的な企画展や展示を準備し、さわやかな笑顔と挨拶で、みなさまをお迎えします。よろしくご指導下さい。

【第23回特別企画展】
山下 清が描く
「東海道五十三次」心の風景
山下 清展
平成26年12月12日(金)～
平成27年2月15日(日)

壱岐市立 一支国博物館
■開館時間
8:45 ～ 17:30（最終入館 17:00）
■休館日　毎週月曜日
（月曜日が祝日の場合は翌日休館）
壱岐市芦辺町深江鶴亀触515番地1
TEL>0920-45-2731　FAX>0920-45-2749
http://www.iki-haku.jp

〈壱岐高校の現況報告〉
国公立・私大とも進学率躍進
就職内定率は１００％達成！

長崎県立壱岐高等学校長　**鶴田　勝也**

歴史と伝統を誇る東京壱岐雪州会の会報誌「雪州会だより」に寄稿できますことを大変嬉しく存じます。私は、この４月に壱岐高校第24代校長を拝命しました鶴田と申します。どうぞよろしくお願いします。では、壱岐高校の現況報告をいたします。

本校は、今年度で１０５年目を迎え、現在、１学年６クラス（うち１クラスは東アジア歴史・中国語コース）で、全校生徒４８０名、教職員数54名です。少子化の影響を受け、生徒数も年々減少傾向にあります。しかし、このような中でも今年３月の卒業生の進路実績は大きく向上し、進学では、国公立大合格が一昨年37名、昨年43名、そして今年55名と伸ばしてきました。私立大合格も昨年86名から今年１１５名と伸ばしています。また、就職においては、高校生の就職が厳しい中にも、本校は、就職内定率１００％を達成し、卒業生は島内外で活躍しております。

また、昨年度本校敷地内に開設した虹の原特別支援学校高等部壱岐分教室には、今年度10名が入学してきまして、活気がでてきました。来年度は、分校に昇格すると聞いております。今後も、学校行事（遠足・体育祭・文化祭等）では、両校合同の企画を実施し、交流を通して、互いを認め合う心優しい生徒の育成を目指したいと思います。

部活動も高校総体で健闘

部活動の活躍として、今年度の高校総体では、陸上部が男子８００ｍで４位、女子１００ｍで５位、女子４×１００ｍで６位という３種目で入賞を果たし、上位大会（北九州大会）に出場しました。また、放送部が、ＮＨＫ杯全国高校放送コンテストで昨年に引き続き、２年連続全国大会出場を果たしました。運動部でいうインターハイ２年連続出場に匹敵するもので、全国の場で壱岐を大々的にアピールできたのではないかと思います。東京在住の本校ＯＢの方におかれては、空港での出迎えや激励等ありがとうございました。

中国語朗読部門は６連覇

続いて、本校の大きな特色をもつ東アジア歴史・中国語コースの生徒が、北九州市で行われました五星奨中国語スピーチコンテストで優勝しました。しかも、朗読部門では、６連覇を成し遂げる快挙を果たしました。そして、８月には、本校の姉妹校である中国上海市の光明中学との交流会や本校での武漢市の高校生との交流会を通して、日中友好の架け橋になるとともに国際感覚を養うよい機会になったと思います。

最後に東京壱岐雪州会の益々のご発展を祈念しますとともに、本校へのご支援、ご厚情を賜りますことをお願い申し上げまして現況報告とさせていただきます。

壱岐高校の在校生

	男　子	女　子	合　計
１学年	82	68	150
２学年	79	68	147
３学年	95	88	183
合　計	256	224	480
※内外国留学生	（ 10）	（　2）	（ 12）

※東アジア歴史・中国語コースの生徒数は在籍数の内数になります。

歓迎遠足（牧崎公園にて）

〈壱岐商業高校の現況報告〉

「郷土研究部門」で日本一に！
「島合宿」を壱岐活性化で商品化

長崎県立壱岐商業高等学校長　中園　順喜

東京壱岐雪州会の皆様には、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。また、本校同窓生の皆様には、修学旅行生徒に対していつも励ましのご講演をいただき、感謝申し上げます。

さて、昨年度から現在までのことについて、5点ご報告いたします。

まず1点目は、文化部のインターハイとも呼ばれる「全国高等学校総合文化祭（長崎しおかぜ総文祭）」が、昨年8月に長崎県内各地で開催されました。壱岐市でも「郷土研究部門」が行われ、本校情報メディア部が、「美味しい！楽しい！島合宿☆壱岐」というテーマで研究発表を行い、最優秀賞をいただきました。日本一となったのです。発表内容は、「本土地区の学校の部活動に壱岐で合宿をしてもらえれば、宿泊代、食事代、お土産代などを壱岐に落とし、壱岐に大きな経済効果をもたらすだろうというもので、高校生が考案した壱岐活性化対策として高く評価していただきました。現在、この島合宿を商品化しようと、壱岐市、壱岐振興局、壱岐市観光連盟、ＪＴＢなどと連携して進めているところです。

2点目は、進路です。今年3月の卒業生１０６名全員の進路が決定し、そのうち2名が関東方面で就職しています。卒業生には同窓会入会式の折に、「各地で行われる壱岐の会に参加してほしい」と宣伝しておりますので、長い目で見ていただけたら幸いです。

3点目は、6月に行われた県高総体において、ソフトボール部女子が3位入賞を果たしました。県高総体の団体競技で賞状をいただいたのは20年ぶりです。以前には全国大会にも出場したこともある伝統あるソフトボール部です。今後も上位進出してくれるものと期待しています。

高校情報処理競技では6年連続で全国大会に

4点目は、全国高等学校情報処理競技大会の長崎県予選で、3年生の山下雄二君が個人の部で2位となり、全国大会への切符を手にしました。山下君は昨年に引き続き2度目の全国大会出場、本校生としては6年連続で全国大会への出場権獲得となりました。

最後に5点目は、昨年の11月17日に本校第一回卒業生が、古希のお祝いということで、壱岐で同窓会を開催してくださいました。私も参加させていただきましたが、宮司様からのお祓い、壱岐神楽と厳かに始まり、最後にはカラオケも飛び出し夜11時頃までと、本当に盛会でございました。同窓生の皆様におかれましては、ぜひ壱岐で同窓会を開いて、学校にもおいでいただき、生徒にお声をおかけいただければ幸いです。

このように壱岐商業高校は頑張っていますので、今後ともご支援をお願いいたします。

壱岐商業高校の在校生

	男　子	女　子	合　計
1学年	48	60	108
2学年	59	46	105
3学年	41	55	96
合　計	148	161	309

全国高等学校総合文化祭（長崎しおかぜ総文祭）で最優秀賞を受賞した情報メディア部

創立60周年迎えた東京渡良会に思う
会員同士や故郷との絆を深める意義

東京渡良会会長　山本　紘子

東京渡良会は今年で創立60周年を迎えました。

渋谷の道玄坂で産声をあげ、現在まで諸先輩の会員の皆様の故郷への強い思いが、この貴重な歳月を繋いできているからこそと思います。東京には東京壱岐雪州会があるのに「なぜ」この会が発足したのか?それは東京で人生の志を全うすべく、がむしゃらに努力する中、心の支えになったのが故郷渡良での生活の思い出だったからだと思います。

東京渡良会の皆さんと会うと、磯に潜ってウニやアワビを採ったり、クサビやあらかぶを釣ったりなど、豊かな自然と人の温かさの中で過ごした渡良での小さい頃の思い出に話は尽きない。そして芋やウニメシなどを持ち寄り、会話はさらに盛り上がり、故郷に感謝する気持で満たされ、それが会員の絆を深めることになり今日まで思いが続いているのです。この絆こそ東京に住む私たちの心の支え、癒し、それが如何に大切なものであるか実感しているからです。それが東京渡良会の存続の意義だと思います。

先輩達はこの感謝の気持を「生への原点」へと昇華させ、その気持ちを形として表すにはどうすればよいかを行動で示してくれました。

その行動の一つが元の美しい自然を取り戻すために始めた渡良での松の植樹でした。これは13年前からになります。更に3年前には元東京渡良会会長の鎮守繁光様から寄付をいただきました。その心遣いに応えるべく、私たち会員は渡良小学校の中上校長先生にご相談し、小学校生徒と保護者、ふるさと渡良会と合同で、浜の掃除をすることにしました。

今年で3年になります。校長先生と「3年は続けたいですね」という気持ちがあったからこそ続けられたと思っています。また植樹した松の成長を手助けしていただいている地元の方々も高齢になり、松を守るのが大変だと聞き、浜清掃の後、松の下草刈りもしようということになりました。

故郷の人々との交流の大切さ学ぶ

このような活動が出来るのは、先輩たちの行動が、私達に故郷の重要性を気付かせ、勇気づけ学ばせてくれたからだと思います。こうした活動を通して実感させられ思ったことは、故郷の大切さであり、故郷の人々との交流が如何に重要かということです。

ふるさと渡良会、中上校長先生、小学校生徒の皆さんそして保護者の方々のご支援があってこそ、私たちの活動は続けられてきたのです。

東京と故郷に住む人々が相互思いやり、配慮する優しさ、寄り添うことの大切さを私達に教えてくれました。今後も東京渡良会は感謝を込めて、この気持を行動で示し周囲へ発信し続けていくことが出来ればと願っています。＝東京壱岐雪州会顧問

（写真はふる里に寄付した植樹の手入れをする会員）

初めて踏んだ壱岐の島…
釜山から引き揚げ途中に漂流も

東京壱岐雪州会顧問　大杉　一雄

時は1945年（昭和20年）10月、船が釜山港の防波堤を出たところで、高速で追ってきたランチに停船を命ぜられた。ランチには米国の兵士と朝鮮の即席の官史が乗っていた。乗船者・積荷・行き先等詳しく検閲を受けた。船長は三拝九拝し最後はマッコリの袖の下で検閲を潜り抜け最初の寄港地対馬に向かって船足を速めていきました。

来年は終戦から70年。今では戦後生まれの人が全人口の75％以上を占め戦争の記憶をたどれる人も年々少なくなってきています。終戦直後の悲惨な体験を思いつくままに綴り、2度とあのような戦禍を繰り返すことのないよう願いたい。

これは私が11歳の時経験した朝鮮の釜山府から壱岐の島に引き揚げる時の出来事を記したもので遠い昔の記憶をたどっての表現なので間違った所もあるかもしれません。

第2次大戦敗戦直後の外地（満州、朝鮮、台湾、その他）から諸々な困難を乗り越えて内地に引き揚げて来られた方が大勢いる中、比較的近い釜山から壱岐の島に引き揚げることは容易に見えますが、当時の釜山府の日本人は住む家があるからと言う理由で、正規の引き揚げ船は満州、北朝鮮など遠くから命からがら釜山まで辿りついた人達が優先で釜山の人達は後回し。そこで、対馬や釜山近港の漁船、小型貨物船が闇船と称して、対馬、壱岐、北九州各県、山口県方面まで動き始めていた。

私たちの乗った船は10トンくらいの対馬の小型漁船で渡航料金は1人200円、荷物1個100円、荷物は1人に対して2個までと決められていましたが、荷主（裕福なひと）のいない荷物が沢山載っており、船長が検閲で苦労していたのがわかりました。

乗船者、荷物、すべて壱岐は郷ノ浦上陸を目指して航海していましたが、焼玉エンジンが突然停止し、朝鮮海峡を漂流しはじめました。

翌朝早く目を覚ますと船は対馬の浅茅湾の静かな小さな浦に停泊していました。前日夕方のエンジントラブルによる漂流から、此処までは夢の中でした。水と食料の調達を終え対馬の東、対馬海峡に出て壱岐の島に向かって南下。壱岐の島がきれいに見えはじめた頃、船尾10メートルくらいの海上で大きな水柱が立ち、かなりの衝撃を受けました。米軍が敷設した浮遊機雷に接触したのです。大人の話だと機雷は接触してから数秒経過した後爆発するので小さな船は大丈夫だと言っていました。

対馬海峡は凪いでおり船は壱岐の西海岸を進み、やがて渡良嬬娥と三島（大島、長島、原島）の間を抜け郷ノ浦港へと進み、弁天先の鮮やかな松の緑を見ながら海岸に無事着岸。この日が故郷壱岐の地を初めて踏む第一歩となりました。

私も今年傘寿を迎えました。人生振り返ってみると、誕生から朝鮮を離れるまでが幼児期（第1章）、壱岐に帰還して、高校を卒業し上京するまでの8年間が成育期（第2章）、上京して㈱三誠商会勤務一筋の50年が（第3章）、そして退任後今日までが老齢期（第4章）。

お陰様で毎日元気で過ごしています。壱岐焼酎をたしなみ、カラオケに興じ、そして東京渡良会や雪州会など郷里の諸々の会に参加し、故郷の話や昨今の政治社会問題なども話題にして語り合うことを楽しみに生きております。最後に、今日まで東京壱岐雪州会には大変お世話になった御礼と雪州会の益々の発展を願っております。

上京以降の波乱かつ充実した私の生き様については後日、機会があればペンを執りたい気持ちはありますが…（東京渡良会元会長・現顧問）

対馬一誠歌謡ショーで熱唱の大杉さん

ファウンテックが4回目の壱岐研修旅行
46人参加し地引網やバーベキュー等

弊社は今年も5月16日から18日の2泊3日の日程で社員46名による壱岐研修旅行を実施しました。到着の郷ノ浦港では今回も壱岐市観光連盟の長嶋会長、真竹壱岐交通社長、かねや旅館の社長・女将さん達に心温まる歓迎をいただき感謝申し上げます。

当日の夜は玄界灘の海の幸と壱岐焼酎でカラオケの前夜祭。翌日は初めての試み筒城浜での地引網とバーベキュー、出会いの村での初体験。弊社の2工場は海のない県の栃木と奈良に所在しているだけに、全員今まで以上に海を満喫した様子でした。

最終日の夜のカラオケ大宴会には白川壱岐市長、長嶋観光連盟会長にも参加いただき、多大な差し入れまで頂き改めて感謝申し上げます。以下旅行に参加した社員2名による「壱岐の思い出」をご紹介いたします。

（株式会社ファウンテック代表取締役　万谷正）

大自然の海の恵みに感動！

奈良工場業務部　中村　雄一

今年で4回目の壱岐研修旅行。今回は壱岐の大自然を満喫できる様々な「体験」をさせていただきました。最初の体験は筒城浜で地引網をしたことです。白い砂浜、透き通った青い海に感動しながら、社員みんなで地引網の両端を持ち、一斉に網を引いていくと砂浜に揚がってくる網には大小さまざまな魚が掛かっており、獲れた魚はそのままその場で直ぐに刺身にさばいていただいた。

大自然の恵みに感謝しながら食べた新鮮な鯛などの刺身はコリコリとしてとても歯ごたえがあり、本当に美味しかったです。

次は壱岐出会いの村へ向かいました。ここでは貝細工や伝統の鬼凧作り、釣り筏やシーカヤックなど様々な体験メニューがあり、私はシーカヤックを初体験。レクチャーしてくださるお兄さんと共にワゴン車で近くの港へ移動。まず初めにパドルの使い方など陸上で習い、2人1組になってカヤックに乗り港内で軽く練習。最初は真っ直ぐ進まず苦戦しましたが直ぐにコツを掴み、カヤックを横に並べてみんなで記念撮影。そしていよいよ港外出発進行！

内海なので波もさほどなく、大自然を感じながら清々しい風とマリンブルーの海面をパドルで漕いでいく気分は本当に最高で、壱岐の自然を満喫することが出来ました。

壱岐の皆さんの心からのおもてなしに感謝し、この感動を体験しにまた壱岐を訪れたいと思っています。

温かい接待にリフレッシュ

技術部　石井　克欣

入社して3度目の社員旅行。博多港から船に乗り、壱岐の郷ノ浦港に到着しました。

郷ノ浦港での壱岐の方々の歓迎には、毎年嬉しく思います。毎年お世話になっている「かねや旅館」様の前には、海が広がっており、潮風がとても心地よく感じます。

また新鮮な海の幸や山の幸をふんだんに使ったお食事が出され、宴会ではカラオケもあり、とても楽しかったです。観光で訪れた猿岩は、自然が創り出したとは思えないほどの神秘的な光景には、毎回、驚きと感動を覚えています。

今年は地引網とシーカヤックを体験しました。地引網では、漁師の方々と社員一同で網を引き、沢山の魚を獲ることが出来ました。シーカヤックでは、カヤックに2人で乗り込み、息を合わせながらオールで海の上を漕ぎました。

2泊3日、壱岐の自然と壱岐の方々の温かい接待に、心身ともにリフレッシュすることが出来ました。来年の社員旅行が楽しみです。

東京渡良会の第60回記念総会　華やかに

第60回東京渡良会総会は平成26年7月20日、東京羽田の穴守稲荷神社で華やかに開かれました。永林幹事の開会宣言で始まり、高田幹事長が総合司会を務め、壱岐から徳田佳武ふるさと渡良会長、呼子好市会議員、中上一義渡良小学校校長はじめ、東京壱岐雪州会牧山康敏会長、山口永人顧問、坂井伸州副会長、長嶋文満幹事ら多数のご来賓を紹介。

総会では活動報告で、故郷渡良のツウィンビーチの清掃作業の模様や、東京渡良会が寄贈した抵抗松の下草刈りなどを報告。議事は予定通り円滑に進み、続いて第60回記念総会に因んで最近の会長5人（鎮守繁光、大杉一雄、鎮守次郎、蔵方肇、前田太郎の各氏）に記念品を贈呈。

この後、辻川九州男顧問の乾杯発声により懇親会に。懇親会は玉置慶子副会長の軽妙な司会で進められ、来賓のご挨拶や壱岐の情報に耳を傾けました。アトラクションは司会者の玉置さんが率先して行動を起こし、山本会長や広田ケイ子さんらが前に出て楽しく踊るなど和気あいあいの雰囲気。

さらに馬場喜代治副幹事長の指導で抽選の結果、塚本武利副会長が賞品を獲得。最後は蔵方顧問の中締め、塚本副会長の御礼の挨拶で来年の再開を念じ終了しました。来年もまた穴守稲荷神社での邂逅を祈念して。

（東京渡良会幹事長　高田　英志）

第23回壱岐高東京同窓会

6月22日に第23回壱岐高東京同窓会総会を東京都千代田区麹町の「スクワール麹町」で56名が参加して開催しました。

壱岐から壱岐高の鶴田勝也校長、壱岐高同窓会の江田和夫会長を来賓としてお迎えし祝辞を頂戴しました。また、白川博一壱岐市長、長嶋立身壱岐市観光連盟会長からも祝辞のお手紙を頂きました。

総会では昨年の同窓会活動の報告、会計報告を行い出席者の満場一致で賛同を得ました。配布資料の栞の表紙写真は、昨年7月に羽田空港へ第60回ＮＨＫ杯全国高校放送コンテスト全国大会出場の壱岐高放送部員を歓迎出迎えした写真を採用。鶴田校長からは「壱岐高放送部が今年も全国大会へ出場することが決まった」とうれしい報告。

本年は役員改選の年となり、新会長に森山實氏が就任。他は副幹事長に齊藤宗則氏、監査に江口久義氏が新役員として就任しました。従来からの役員を加え総勢12名で役員会を運営していきます。

懇親会は平成生まれの土肥瑞希さんの音頭で、壱岐市の条例にならって壱岐焼酎の乾杯で始まりました。山内賢明玄海酒造会長が壱岐の近況報告。

アトラクションは、同窓生の参加するフラダンスクラブによるフラダンスが南国ハワイの衣装で情緒豊かに披露。

２つ目のアトラクションはビンゴゲームで、賞品は壱岐焼酎、壱岐の海産物、壱岐市役所からは壱岐市制施行10周年の記念の焼酎のプレゼン

トもあり、豪華な賞品が多数。
久しぶりに顔を合わせ、和気あいあいの2時間はあっという間に過ぎてしまい、来年の再会を約束してお開きとなりました。
（壱岐高東京同窓会幹事長　副島清）

壱岐高放送部が全国大会出場

壱岐高校放送部は昨年に続き、2年連続で第61回ＮＨＫ杯全国高校放送コンテスト長崎県大会で優秀賞を獲得して全国大会へ出場しました。長崎県大会の結果は創作テレビ部門優秀賞（作品名　ダンＢＯＹ）、朗読部門　優秀賞（3年　山本愛莉）です。

全国大会は7月22―25日まで国立オリンピック記念青少年総合センターとＮＨＫホールで開催。

壱岐高校からの出場者は放送部部長坂口芙亜紗さん以下4名で顧問の稲尾一彦先生の総勢6名で7月21日に上京。在京の壱岐高東京同窓会の21名が羽田空港の到着ロビーで出迎えました。予定より遅れて午後二時過ぎに到着。

歓迎式は森山会長の歓迎挨拶、稲尾先生から出迎え御礼の挨拶、放送部部長坂口芙亜紗さんからは大会へ望む決意表明、そして生徒全員の自己紹介が有りました。最後は横山致和さんの指揮により全員でエールを送り大会の健闘を祈りました。

全国大会出場の結果は、残念ながら上位進出は成りませんでした。

今後も全国大会進出、そして上位を目指して頑張ると放送部部長より決意のメッセージが後日届きました。

壱岐高東京同窓会は今後も後輩諸君の活躍を応援します。関東近郊での大会等に出場が決まった場合は応援団を結成して駆けつけます。後輩諸君、体育系、文化系を問わず全国大会を目指して切磋琢磨してください。

（副島清）

消防団芦辺地区第一分団ポンプ車操法で全国大会へ11月8日に東京で開催

壱岐市消防団芦辺地区第一分団がポンプ車操法の部で長崎県大会10連覇を達成し11月8日、東京で開く全国大会に出場します。

同第一分団は8月に大村市で行われた第32回県消防ポンプ操法大会のポンプ車操法の部で優勝し、県大会10連覇の偉業を達成しました。これを踏まえて今年11月8日、東京の臨海広域防災公園で開かれる全国大会に出場して日本一を目指す。

壱岐市消防団はこれまで壱岐各地区から出場するポンプ車、小型ポンプ車操法の両部門で優勝、準優勝など常に好成績を収めている。今回も全国制覇を目指して選手団は張り切っている、と壱岐市消防本部は期待しています。

東京壱岐雪州会の皆さんも応援に駆け付け、選手を励ましましょう。

主役は私！第6回壱岐商高関東同窓会

壱岐商関東同窓会の朝（9月7日）は、テニス全米オープン男子シングルス準決勝で錦織圭選手が、世界ランク1位のジョコビッチを下し決勝進出を勝ち取りました。

そして、受付でいただいた壱岐商業高校同窓会報の中には、第37回全国高等学校総合文化祭「長崎しおかぜ総文祭」の郷土部門で壱岐商業高校が最優秀賞、日本一に輝いた記事が出ていました。

卒業生にとって、後輩の活躍、母校の発展は嬉しいことです。

壱岐商高関東同窓会総会は、嬉しい2つの「朗報」をいただいて開会しましたが、この会の特色は一人ひとりが主役ということです。その代表が「1分間、主役は私です」という自己紹介の時間です。

今年も楽しいスピーチが続きました。「わたしは○○と申します。…目黒で美容室を経営しています」という紹介を受けて、「私は品川に住んでいる○○です。…今度パーマで伺いますのでよろしくね」と続いたり、「向こうに座っている人、もしかしたら○○くんか？と思っていたらその通りで、39年ぶりの出会いになりました」という驚きの紹介もありました。

本会が、参加する会員にとって、年に一度の楽しい出会いの場となるよう頑張る。役員の思いです。

（壱岐商高関東同窓会副会長　吉野弘一）

全日本綱引選手権 むぎ焼酎壱岐 遠山の金さん 20年連続出場で特別表彰

全日本綱引選手権大会が3月2日、東京・駒沢オリンピック公園体育館で開かれ、今年で長崎県代表として20年連続出場の快挙を果たした「むぎ焼酎壱岐　遠山の金さん」チーム（玄海酒造後援）が特別表彰されました。今回表彰されたのは同チームだけで、他の選手や観客席からも盛んな拍を送っていました。

また競技後は品川プリンスホテルに場所を移して選手慰労会が東京壱岐雪州会や長崎県人クラブなどの関係者約80人が参加して盛大に開催。これまでの連続出場をたたえるとともに来年からの21回以降のスタートに新たな決意を示していました。

競技では全国の強豪相手に残念ながら5試合戦って全敗。玄海酒造の山内賢明会長は「今年は未勝利に終わったが、今回の特別表彰は選手諸君にとっても大変な励みになる。選手の強化を図っていきますので引き続き応援をお願いしますと」語った。山内昭人同社社長も「選手の努力はもちろんですが家族の応援も大きい」と家族の支援に感謝の念を表しました。

慰労会ではまず各関係者代表が壇上に上がり2組に分かれて鏡開きし、威勢よくスタート。オペラ歌手市山惠一さんの熱唱や対馬一誠さんの歌、さらに舞踊、カラオケなどで大いに盛り上がったことでした。選手もこの日ばかりは寛いだ様子で連続出場の更新に向けて英気を養っていたようです。

選手団とともに御礼の挨拶する山内会長

みんなのチカラで残す！
「昭和を生きた歌謡詩人・松坂直美の生涯」

東京壱岐雪州会幹事　村上　安弘

東京竹芝を出港して10時間、この島のシンボル八丈富士は雲の中だ。桟橋に着くと岡野みち子さんが笑顔で出迎えてくれた。自宅へ着くと玄関から仏間の部屋とリビングに岡野さんの父・松坂直美さん（第6代雪州会会長）の資料が山のように置かれている。岡野さんに相談されて9ヶ月、ついに八丈島まで撮影に来てしまった。昨年10月、実家を処分するので父の遺品をなんとか残せないだろうか。そう言われて大森の松坂家へいくと一階から2階にかけて直美さんが残した資料や本が山のように置かれていた。猪俣公章が弾いたであろうピアノ、美空ひばりや淡谷のり子など芸能人との写真、古い作詞ノート、膨大なレコード、芸能ニュースのスクラップ、家族のアルバムなどなど。その遺品の中で一枚の原稿用紙に出合った。そこには「帰ろうかな　ふるさとへ」と書いてあった。

ふるさとの　山が呼んでいる
ふるさとの　川が呼んでいる
帰ろうかな　帰ろうよ
想いで楽し　ふるさとへ
ふるさとの　空が呼んでいる
ふるさとの　君が呼んでいる
逢いたいな　逢いたいな
初恋かなし　あのひとに
ふるさとの　海が呼んでいる
ふるさとの　島が呼んでいる
帰りたい　帰りたい
瞼に浮ぶ　ふるさとへ

この詩を見た時、どうにかしてこの松坂さんの気持ちを残せないだろうか。松坂直美の生涯をビデオに残したい。でも・・・ひとりの力では無理だ。そこで、松坂直美さんを思う人たちや壱岐を思う人たちでこのビデオを制作できないだろうかと雪州会に相談したところ快諾をいただき、会長始め多くの方のご支援ご協力を得てプロジェクトが動き始めた。

資料を調べれば調べるほど昭和、平成という時代の中でふるさとを壱岐を思う松坂さんの姿が浮かび上がってくる。何としても、応援してくださる全国の壱岐関係者のためにもいい作品にしなければ、そして、みんなのチカラで作詞家・松坂直美さんをもっともっと多くの人に知ってほしいと思います。応援よろしくお願いします。

父・松坂直美の13回忌にあたり
音楽で繋がる出会いに感謝

八丈島在住　岡野みち子

父が亡くなってから、あっという間の13年でした。この度、雪州会アドバイザーグループの皆様のお力添えによりまして「自分の遺品は全て壱岐へ送って欲しい」と言っていた父のかねてよりの遺志を実現することができ感謝致しております。

父の資料を整理していますと松永安左エ門翁の伝記「我が人生は闘争なり」の出版、「玄海ワルツの碑」の建立などに際し、東京壱岐雪州会歴代会長様（後藤國丸・立石公博・森谷正規・山内賢明各氏）に一方ならぬお世話になった様子が伺えます。

「壱岐人の誇りを胸に壱岐の自然が人々の心を癒してくれるんだよ」といつも口にしていた父の言葉を今更のように思い出します。壱岐の誇りを全うする事が出来た父の人生は大変幸せだったと思います。また、村上安弘様によりまして、死ぬまで壱岐を思い続けた父・松坂直美の映像を残していただくプロジェクトも進行しております。感謝の気持ちが一杯で言葉が見つかりません。

古賀政男財団から大衆音楽の殿堂入りに選定

そして、この13回忌に古賀政男財団から大衆音楽の殿堂入りに選定され、古賀音楽博物館に父のレリーフが飾られることになり、大変うれしく思っています。

この原稿を書くにあたり、人が生きていくのになんて多くの方々に助けられ、支えられていくものだとつくづく感じます。東京壱岐雪州会の牧山康敏会長はじめ坂江博見様、竹富鉄一様、柴山繁様、山本紘子様はじめお世話になった方々のお顔が目に浮かびます。最後になりましたが白川博一壱岐市長をはじめ、教育長、総務部長、学校長、同窓会長など関係者の皆様に大変お世話になりました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。そして、音楽でつながる新しい出会いにただ感謝致します。ありがとうございました。

―◇―◇―

〈注〉松坂直美氏　壱岐市芦辺町出身。明治43年生まれ。戦前から戦後にかけ作詞家として活躍。戦後は美空ひばりら多くの歌手の作詞を手がける。古賀政男との親交も深く日本作詞家協会副会長、日本訳詞家協会理事長など歴任。第6代雪州会会長も務める。岡野さんは長女で今年6月には遺品のピアノを松坂氏の出身校の芦辺小学校に寄贈。

資料整理中の岡野さん

玄海酒造主催ゴルフ 来年は壱岐で開催！

今年7月8日、過去最多の85人が参加して玄海酒造主催の第17回ゴルフコンペが千葉県の名門コース「千葉カントリークラブ」で盛大に開催。

この大会は毎年、玄海酒造の関東地区の取引先である酒販卸問屋を始め東京壱岐雪州会、長崎県人クラブ（理事長山内賢明氏）などの関係者さらに福岡、関西、東海の各地区壱岐人会からも参加するなど多彩な顔ぶれによる賑やかな大会。

当日は超大型の台風8号の接近で懸念されたが、晴れてゴルフ日和に。プレーはアウト・インそれぞれ11組ずつのスタート。

競技後は懇親会に移り、壱岐市の条例に従って、ここでも「壱岐焼酎」で乾杯。お互いのゴルフ自慢や焼酎談義、壱岐の話で懇親の輪を広めた。来年は壱岐で開催することが決まり、島外の参加者も含め今から壱岐でのゴルフに期待を膨らませている。参加者には同社の焼酎と「いりこ」が全員に配られた。

長崎ハタ揚げ大会 雪州会から80人参加

長崎ビードロ会（長崎市出身者の関東地区親睦会）主催の第53回長崎ハタ揚げ大会が平成26年4月29日東京大田区六郷土手（多摩川緑地区民広場）で開かれ、東京壱岐雪州会も平成18年から友好参加し今年は80人程が会員同士及び各地区の長崎県出身者との親睦を深めた。

今年も当会顧問蔵方肇さんや馬場喜代治さんらが立派な出来栄えの凧を数枚持参し、他の地区の凧よりも高く舞い上がっていた。特に今年は蔵方さんの「きずな」「雪州会」「おもてなし」「いまでしょ」「渡良会」名入り菱形凧が揃って最も高く飛んでいた。

今回も山内賢明名誉会長（玄海酒造会長）寄贈の壱岐特産むぎ焼酎で、壱岐市条例に賛同し〝壱岐焼酎で乾杯！〟と声高く何度となく乾杯し、会場の他の地区の方に対しＰＲの場となり焼酎談義がはじまった。また、車座の歓談の場では岡野みち子さん、大杉一雄さん、長田玲子さん他手作り弁当、自家製クッキー、缶ビール等差入れがあり大いに盛り上がった。

空には多くのハタが舞い広場では腹話術、蛇踊りも披露され、「モッテコーイ！」「モッテコーイ！」のかけ声が飛び交いその度にお捻りが投げ入れられ喝采を浴びていた。売店では長崎名物カステラ、大村寿し、長崎俵物等の長崎特産品、作り立てのチャンポン、角煮まんじゅう等の販売で終始賑わっていた。

来年も4月29日、青空のもと新緑の河川敷ですので家族連れでの参加をお待ちしています。

（東京壱岐雪州会副会長　坂井伸州）

将校宿舎

聖母宮

勝本浦の聖母宮は、神功皇后が三韓の行き帰りに建てられた。1592年朝鮮出兵の折に加藤清正等の武将が再興した。西門は加藤清正寄進。南門は鍋島直茂寄進。そして、聖母宮向かいに将校宿舎「旗揃舎」を建造。その後、宿舎は戦勝祈願の神事を務めた壱岐惣大宮司の住居とされた。石垣はその時に築造されたものである。

聖母宮名誉宮司　吉野弘一

http://www.maroon.dti.ne.jp/kazamoto/index.html

各地区壱岐の会 総会素描

〈福岡壱岐の会〉
盛大に45回記念総会
壱岐神楽の奉納も実現

45回の総会を6月15日に開催。210名の参加で八仙閣の大広間も狭く感じるほど。壱岐からも多数参加し壱岐市民との交流の場ともなり、賑やかで楽しい会。

壱岐神楽保存会と壱岐市観光連盟のご配慮で、壱岐神楽の奉納が実現。立ち上がって見る人も多く、その神々しさを目の当たりにして、神々の國壱岐の伝統神事の素晴らしさを再認識した方が多かったようです。

市の関係者（市議、職員、観光連盟）全員が登壇しての「ごっとり市場」の宣伝は迫力十分。子供たちを歌で元気づけるための、ソプラノ歌手原田千春さんの壱岐での活躍ぶりの話は感動的。多数の方々の一口PR、歌手錦織（旧姓長岡）武美さんの歌謡ショーと座が盛り上がる。総会の様子は後日、壱岐市で放映されました。

昭和44年に壱岐人会としてスタートし、先輩諸氏や関係者のご尽力で45年目を迎え感無量。壱岐市との連携プレーをより強化し今後の発展・継続に努めたい。97年目を迎える大先輩東京壱岐雪州会のご指導・ご支援を今後ともよろしくお願いします。

（福岡壱岐の会会長　幡鉾賢輔）

〈関西壱岐の会〉
若い力で組織の活性化！
仁鶴師匠も特別に参加

東京壱岐雪州会の皆様こんにちは！　関西に在住の壱岐出身者の数は、東京・福岡に比較すると少なく学校同窓会等の組織もなく、壱岐の会の組織活性化には苦慮しているのが現状です。近年、青年部の活躍で長崎県人会のふるさと祭の「壱岐の会コーナー」に家族ぐるみ・友達グループでの参加も増え、青年部独自で壱岐の鰤まつりやボーリング大会・バーベキュー大会などを企画実施し女性や若者の参加も徐々に増加、関西壱岐の会総会・懇親会も若手理事や女性リーダーの意見を聴き内容を会員の楽しいスタイルに変えながら参加者重点に企画実行に努めています。

昨年、岡本隆子（隆子姫）さんが「そこのけそこのけ仁鶴の女房が通る」が出版され総会で購入者全員に隆子姫のサインをして頂いたのですが、今年もハードスケジュール知りながら出席を依頼、ちょっと顔だすけん！が笑福亭仁鶴師匠もご一緒頂き出席者にも喜ばれ感激でした。東京壱岐雪州会の皆様の益々のご活躍を祈念します。

（関西壱岐の会会長　立石英隆）

〈東海壱岐の会〉
カーニバルサンバ等
華やかに盛大に開催

名古屋市栄区の中日パレスにて、東海壱岐の会の第24回総会が5月11日、165名の参加を得て盛大に開かれました。来賓は壱岐から中原副市長、松尾壱岐振興局長、山内玄海酒造会長ら13名、各地区壱岐の会会長等60名の方々がご出席。

永田会長挨拶の後、来賓の方々のお祝いのお言葉。東海壱岐の会からは壱岐中体連の植村理事長に10万円の目録贈呈。柳澤商工会会長には壱岐の話や報告をしていただきました。

懇親会は町田壱岐市議会議長の乾杯に始まり、アコーディオンの懐かしい歌や幸川マキさんの演歌。そして5人の華やかなカーニバルサンバ

ダンスは会場の中を踊りまくり、皆さんすっかり盛り上がり、楽しい時間が流れました。また物産展や紅茶コーナーなども人気。歌って飲んで、壱州弁で笑って楽しい3時間もあっという間でした。

お楽しみ抽選会では全員外れなしで、壱岐からの海産物などが当たり皆さん大喜び。最後に全員が手を繋ぎ輪になって「ふるさと」を歌い、名残惜しみつつ、またの再会を楽しみに閉会しました。皆様、有り難うございました。

（東海壱岐の会副会長兼事務局長　高橋睦子）

雪州会役員人事　牧山会長が退任
新会長に万谷氏・幹事長は長峰氏

東京壱岐雪州会は牧山康敏会長が4年の任期満了に伴い退任し、後任に万谷正副幹事長の昇格を決めた。牧山会長は名誉会長に就任。副会長兼幹事長には長峰隆徳監事が就任。また副会長に山田義則監事が昇格。前田太郎、山本紘子両副会長は顧問に就任。吉野弘一、坂井伸州（会計担当）、久原順一の各副会長と長田玲子会計担当は留任。

さらに新監事（監査担当）には下条司理事、長嶋文満幹事が、新幹事に玉置慶子、江口久義、村上安弘、白石光男の各理事がそれぞれ就任した。また新理事に副島清、立石義昭両氏を選任。（29頁に人事一覧表）

11月16日に関東初山会総会

関東初山会（長嶋文満会長）は11月16日（日）正午から、お茶の水の「ホテル・ジュラク」で平成26年度定時総会を開く。事務局では多数の参加を呼び掛けています。

〈トピックス〉大女優2人に魅了
和む岸・吉永さんの共同記者会見

普段は総理大臣など国内外の要人を招いて開く日本記者クラブ（東京・内幸町）での会見。

ところが、この日、平成26年7月7日は別の意味で異常な興奮と和やいだ雰囲気に包まれた。あの大女優岸恵子さんと吉永小百合さんが揃っての記者会見。

「歩いて行く二人　岸恵子　吉永小百合」（対談＆写真集）の刊行にちなんでの著者会見である。約180人の大勢の記者が駆け付けた。

印象に残る俳優として岸さんは「立ち居振る舞いのいい池辺良さんが素敵だった」と語れば吉永さんは「森雅之さんと松田優作さんが思い出に残る俳優」と応じる。更に岸さんは日本人と外国のジャーナリストについて「外国の記者は女性の年齢を紹介するにしてもちゃんと節度を守るが、日本の記者は配慮が足りないのでは」とチクリ。吉永さんは宇野千代さんとの会話を紹介し「好きな男性がいても自分からは言い出せない」と話すと宇野さんは「だからあなたはケチよ」と言われたとか。

会見は原発問題にも及んだが、岸さんは「すぐ廃止はどうか。科学者と一緒に考えていくべきでは」と語り、吉永さんは「あの3・11の東日本大震災を思うと原発はない方がいい」と存続には反対の立場。

硬軟織り交ぜての1時間の会見はあっという間に過ぎた。司会は読売新聞特別編集委員の橋本五郎さん。

私も約50年、多くの記者会見に出ているが、肩ひじ張らない楽しい爽やかな会見としてこの日は印象に残る一コマであった。

（日本記者クラブ会員　牧山康敏＝写真も）

会長退任に当たり　お礼のご挨拶
皆様に支えられ、ふるさとを思い

東京壱岐雪州会　牧山　康敏

東京壱岐雪州会の歴史は滔々（とうとう）と続きます。3年後には創立１００周年を迎えます。

私は平成26年10月26日を以て4年間の任期満了により雪州会会長を退任いたしました。副幹事長3年、幹事長8年間に会長期間を合わせ15年間にわたり会の運営の一端を担当させていただきました。

この間に賜りました雪州会会員の皆様、役員の皆様、ふるさと壱岐の皆様、各地区壱岐人会の皆様そして長崎県下各地区の皆様方のご協力や励ましに衷心より感謝と御礼を申し上げます。

雪州会の歴代会長は錚々たる方々ばかりであります。比肩すべくもなく、私は普段着のありのままの姿勢で臨んできた積りです。同郷の人達の親睦会。如何にその出会いの場を広め、深耕していくか。そして壱岐市の活性化にどうすればお役に立てるか、を活動の主眼に置いて取り組んできました。同時に壱岐の情報を少しでも都会の人々に発信すべく今も心がけています。

しかし、どれほどの効果を示し得たか、忸怩たる思いは尽きません。壱岐の土にまみれて育った私の、ふるさとに対する愛着は強いものがあります。その心があればこそ、「与えられた役割」を一応全う出来たと思っています。私は会長職とは駅伝走者のようなものだと考えています。自分の与えられた期間（区間）を全力で走り切り、次の走者にタスキを託す。全員の力が組織を活性化させ、永続すると信じているからです。

次の新会長以下執行役員・理事の皆さんもその役割を全うし更なる前進と改革を重ね、雪州会の長い伝統と歴史を積み重ねてくれるものと信じています。会員及び関係各位の一層のご協力をお願い致します。

急激な人口減少で衝撃発表
安全保障問題も常に直視を

それにしても、この10数年間は国内外ともにまさに激動の時代でした。国内では相次ぐ「猫の目政変」、デフレ経済、２０１１年3月11日の、あの忌まわしい東日本大震災・東電福島第一原発破壊による放射能汚染、自然災害等々。国際的には国境・民族・宗教紛争や国際テロ集団の暗闘。

国内政治はいま安定の方向にあります。経済はアベノミクスによってデフレ脱却の道筋が見えてきました。ただ地方自治体の急激な人口減少問題は深刻です。２０４０年には全自治体の約半分が人口減少で「消滅可能性都市」になると、民間調査機関の日本創成会議（座長・増田寛也元総務相）が発表し、全国に衝撃が走りました。壱岐市においても、若者の島外流出を防ぎ、更にJターンや移住への方策など「特色ある地域」をどう創生するか。そのための雇用の場をつくれるか、答えは簡単ではないでしょう。

そうした中で地域の方々の創意工夫により各分野で成果が表れつつあります。未来に向けて心強い限りです。全国レベルでは消費税再引き上げへの対応や膨らむ財政赤字・社会保障費など課題は山積しています。

一方、安全保障面では中国による、わが国固有の領土・尖閣諸島に対する執拗な領海侵犯の繰り返し等々、ひと時も目を離せない状況にあります。ふるさと壱岐は国境離島と言える位置にあります。国益と国民の生命・財産を守る意味でも安全保障問題は私達国民一人ひとりが常に直視すべき課題でもありましょう。

最後に会員皆様方のご健勝と壱岐市の発展を願い、ご挨拶といたします。有り難うございました。

☆ 半導体(LSI)の設計・開発、製造及び販売
☆ 自動車向け組込みソフトウェアの設計開発
☆ システム開発事業及び開発支援事業
株式会社 アサヒ企画　ASAHI KIKAKU
代表取締役　立石義昭
〒353-0004　埼玉県志木市本町２－９－２６－２０１
TEL　048-423-3722　　FAX　048-423-3723
URL http://www.asahi-kikaku.jp/　E-Mail: tateishi@asahi-kikaku.jp
埼玉営業所　〒352-0001 埼玉県新座市東北2-40-6 ﾗ･ｳﾞｨｰﾀﾞ志木１F
当社は、お客様と一体となり
設計開発支援の提供を行っています。

平成27年度　東京壱岐雪州会　役員一覧

［執行役員］

会長	＊万谷　正	特別顧問	＊立石　公博
副会長	坂井　伸州(会計兼務)	名誉会長	森谷　正規
同	久原　順一	同	山内　賢明
同	＊長峰　隆徳(幹事長兼務)	同	＊牧山　康敏
同	吉野　弘一	顧問	坂江　博見
同	＊山田　義則	同	大杉　一雄
副幹事長	＊篠崎　方哉	同	柴山　繁
会計	長田　玲子	同	竹富　鉄一
監事	＊下条　司	同	蔵方　肇
同	＊長嶋　文満	同	山口　永人
幹事	＊玉置　慶子	同	＊前田　太郎
同	＊江口　久義	同	＊山本　紘子
同	＊村上　安弘		＊印は新任
同	＊白石　光男		

（以上　執行役員）

〔理事〕(50音順)

浅井　恵子	京﨑　昇	土谷　厚巳	日高　克也
市山　惠一	後藤　正彦	寺田　政輝	平岡　仁江
岩崎　和弘	斉藤　宗徳	徳永　光子	干田　弘義
浦川祐次郎	柴崎三佐子	殿川　茂	堀江　輝男
浦瀬　博之	下條　功	豊永　正臣	前田　茂喜
浦富　文夫	下条　昭二	長岡　秀星	深山　祐助
大久保文人	住田　琢彌	長嶋　一雄	村井　有
大久保寿雄	＊副島　清	永田　美徳	森山　実
大久保正孝	高田　英志	永本　繁	山口　義行
大久保芳勝	高山　裕子	野本　一夫	山田　節一
加藤　恒範	竹嶋　商	野本政次郎	横山　登
川元　忠和	＊立石　義昭	野元　宗敏	横山　致和
神田　仁	田中　忠義	馬場喜代治	米光　信博
	塚本　武利	馬場眞佐子	＊印は新任

○**福岡壱岐の会総会（６月15日）**＝今年は創立45周年の記念総会で盛会。雪州会から山内名誉会長、牧山会長、久原、山本両副会長ら４人出席。

○**壱岐観光物産展 in 東京都庁（６月11～17日）**＝壱岐の物産品を東京中心に関東の皆さんに紹介する物産展。壱岐焼酎や海産物、カスマキなどを東京都庁２階に展示。観光客や都庁職員など延べ約8,000人が参観し、特産品を買い求めたり質問したり＝写真。東京壱岐雪州会からも多数参観した。

○**壱岐高東京同窓会（６月22日、ＪＲ四谷駅前のスクワール麹町）**＝今後の総会出席者増加対策など報告。新会長に森山実氏決まる。

○**関西壱岐の会総会（６月29日）**＝雪州会から山内名誉会長、牧山会長が出席。総会では若手の活躍が目立つ。

○**東京渡良会総会（７月20日、羽田の穴守稲荷神社）**＝今年は60回記念総会で大いに盛り上がり、記念総会を祝う。渡良地区以外からの参加者も多数。

○**壱岐商高関東同窓会（９月７日、品川区の品川ホテルゆうぽうと）**＝第６回総会で約30人参加。「１分自己ＰＲ」など楽しい会合。

○**雪州会秋季執行役員会（９月19日夕、竹芝のクオン）**＝平成26年度活動・収支報告、役員人事案など審議。総会対応などを具体的に詰める。11人参加。

○**雪州会秋季理事会（10月６日夕、東京グランドホテル」）**＝平成26年度活動･収支報告、役員人事など満場一致で承認。総会の出席者拡大に向けて役員が一丸となってリードしていくことなど確認。

江田歯科医院

院長 江 田 和 夫

〒811-5214
長崎県壱岐市石田町印通寺浦327-2

電話０９２０－４４－６９４６

美しく穏やかなこの島の佇まいの中にも、「日本の縮図」としての深い問題や矛盾が潜んでいます。通り一辺の「提灯記事」ではなく、掘り下げ、直面し、解決の道筋が見える「力の入った記事」が当紙の真骨頂です。未来は、直視の中にこそ、見出せます。

㈱壱岐日々新聞社
週刊４ページ　月額１千円

811-5136　長崎県壱岐市郷ノ浦町片原触898
TEL 0920-47-2200　fax 47-5455

天然温泉掛け流しの宿。壱岐で唯一、展望温泉の大浴場。湯気と窓の向こうには壱岐・湯の本湾の絶景が広がります。

国民宿舎壱岐島荘

壱岐市勝本町立石西触 101

TEL0920-43-0124
http://ikijimaso.kankai.net/

東京壱岐雪州会　平成26年度の主な活動

（平成25年10月～同26年10月）

○壱岐市活性化会合（平成25年10月26日夕、銀座・交詢社）＝壱岐市から白川市長、久村長崎県壱岐振興局長、長嶋壱岐市観光連盟会長、柳澤壱岐市商工会長や福岡、関西、東海の各地区壱岐人会長、竹永九州郵船社長、東京壱岐雪州会関係者ら計13人が出席。壱岐市の観光交流の促進問題や市の活性化対策などで活発に意見交換。

○平成25年度雪州会総会･懇親会＝（10月27日正午、東京プリンスホテル）＝壱岐から約30人の来賓を含め総勢230人が出席。白川壱岐市長に壱岐緑化寄付金目録（20万円）を牧山会長から贈呈。筑波大生による壱岐活性化プレゼンなども関心。またカスマキや海産物など壱岐特産品の即売、福引抽選で賑わう。

○長崎県人会25年度総会（12月10日夕、東海大学校友会館）＝雪州会から25人参加。全体で中村県知事ら来賓含め383人。同じ県人同士､大いに交流を深めた。抽選会では壱岐焼酎などで盛り上がる。

○長崎県人クラブ新年会（１月29日夕、赤坂ホテルオークラ）＝山内賢明同クラブ理事長ほか雪州会から８人参加。長崎県下の各地区の人たちと活発に交流。

○全日本綱引選手権〈遠山の金さん　むぎ焼酎壱岐〉が20年連続県代表出場（３月２日､駒沢オリンピック公園体育館）＝雪州会、長崎県人クラブなどから約100人が応援。今年は善戦するも５戦全敗に終わる。20回連続出場で遠山の金さんチームが特別表彰。競技の後、品川プリンスホテルで慰労会。選手含め80人参加し盛況。

○国際食品飲料展参観＝（３月４－７日：幕張メッセ）＝同展には壱岐から焼酎メーカー７社の合同と玄海酒造の単独出展。５日に雪州会関係と長崎県人クラブから22人が参観。参観後は会場近くで懇親。

○名誉会長・顧問・執行役員懇談会（４月３日夕、銀座･交詢社）＝18人出席。26年度の雪州会活動などについて意見交換。３月１日の壱岐市制10周年記念式典で東京壱岐雪州会などが優良団体表彰を受賞など式典に出席した山内名誉会長から報告。

○ビードロ会ハタ揚げ大会（４月29日、大田区緑地公園）＝毎年恒例行事で雪州会から約80人参加。全体では約２千人。地元の大田区からも多数参加。今年も子供連れの参加が目立つ。蔵方顧問製作の雪州会の凧が最も高く揚がり群を抜く。雪州会コーナーは壱岐焼酎での乾杯で大歓声。他地区の人も大勢集まる。

○雪州会上期執行役員会（５月９日、芝浦のクオン）＝上期理事会開催を前に上期の活動・収支報告。今年度の総会対応､行事スケジュールの確認など。11人参加。

○東海壱岐の会総会（５月11日）＝雪州会から７人参加。各種アトラクションで大賑わい。

○雪州会上期理事会（６月10日、東京グランドホテル）＝上期の活動・収支報告。壱岐市緑化寄付の継続、事務費の一部負担協力要請などを確認、総会に向けた対応など意見交換。昨年10月の壱岐市活性化会合についても質疑。38人参加。

気持ちが落ち着く温もりの故郷
自分の思い出が詰まった郷里
誰もが原点に戻れる島「壱岐」へ

博多から壱岐までジェットフォイルで70分

九州郵船株式会社

（東京事務所）〒100－0005
千代田区丸の内１－２－１
東京海上日動ビル新館５階
☎　03－3214－1881
（　本　社　）〒812－0022
福岡市博多区神屋町１－27
☎　092－281－0831

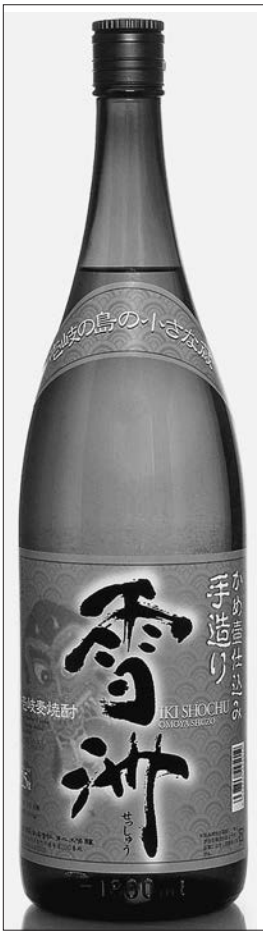
発着時刻等の確認はWEBで　九州郵船　検索

おみやげの店

地元で採れた雲丹を一本一本手詰している、一塩粒雲丹（壱岐産100％）わかめ・ひじき・アオサ・煮干等取り揃えています。地方発送も受けます。

（有）吉田商店

〒811-5135
長崎県壱岐市郷ノ浦町郷ノ浦174番地
TEL：０９２０－４７－００２０
FAX：０９２０－４７－００３０



重家酒造合名会社

TEL 0920-44-5002
FAX 0920-44-8401
〒811-5214
壱岐市石田町印通寺浦200番地
ホームページ
http://www.omoyashuzo.com/

壱岐の島の小さな蔵、重家酒造（名）。かめで仕込む伝統的な製法を守り続けています。銘柄は雪洲・ちんぐ・村主・筒城浜・確蔵があり、それぞれ特徴のある味に仕上げています。

愛され続けて
５０周年

50th JA IKISHI Anniversary

壱岐市農業協同組合

代表理事組合長　　川﨑裕司

〒811-5132　長崎県壱岐市郷ノ浦町東触560
電　話　０９２０－４７－１３３１
ＦＡＸ　０９２０－４７－１２８３
ＨＰ　http//jaiki.sakura.ne.jp

透き通る壱岐の海へＧＯ！
オーシャンビュー客室は早めのご予約を

壱岐の大自然を体験メニューで満喫できる宿
無人島までシーカヤック＆シュノーケリングや釣り筏での魚釣りは
毎年リピーターも多い。
コテージやキャンプ場もあるので、グループやファミリーに
大人気の施設です。

①宿泊料（１人１泊２食）	大人	7,000円	小人	4,600円
②コテージ１棟（定員６名）	１泊	1,5000円		
③シーカヤック	大人	3,000円	小人	2,500円

壱岐出会いの村　長崎県壱岐市郷ノ浦町新田触492番地
TEL 0920(46)0789　FAX 0920(46)0141

壱岐から世界へ――うに三昧！ 東京“うに”専門店。

●とろふわウニオムライス
香ばしいガーリックバターライスに、ウニを混ぜ込み、とろふわな卵をのせて特製ウニソースで仕上げた、人気の定番メニューです。

東京[コレド室町2]ウニ屋のデリストア「リッチョマニア・マーケット」
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2-3-1 COREDO室町2 B1F

●生うに丼セット
ウニの美味しさをシンプルに味わえる、最高のごちそう“ウニ＆ご飯”を手軽に楽しめるセットです。お持ち帰りも簡単にできます。

あまごころ本舗株式会社　代表取締役社長 村田妃富美
http://market.riccio-mania.com
Riccio Mania Market

・福岡本社 〒812-0020 福岡県福岡市博多区対馬小路11-15 Tel.092-281-6224
・壱岐支社 〒811-5132 長崎県壱岐市郷ノ浦町東触597番地 Tel.0920-47-4580
・東京支社 〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-9-2 東日本橋292ビル2F Tel.03-5820-1788
・リッチョマニア・キッチン 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1 東京駅1階キッチンストリート

株式会社　壱岐の華
代表取締役　長田浩義

本格むぎ焼酎

長崎県壱岐市芦辺町諸吉二亦触1664-1　Tel（0920）45-0041

株式会社　長峰マネジメントオフィス

代表取締役　長峰　隆徳

●不動産の売買・賃貸の仲介
●アパート建築のコンサルティング
●リフォーム企画、設計、施工
●有効活用のコンサルティング
●住宅・アパートの建売事業

〒102-0083　東京都千代田区麹町6-2-6　モバフ四ツ谷麹町4階
TEL：03-6365-5953　FAX：03-5215-8864

車にやさしい ノーブラシ洗車場

スプラッシュ自由が丘
世田谷区尾山台3-29

スプラッシュ深大寺
調布市深大寺東町2-12

株式会社 三城洋行

代表取締役 横山 登　〒214-0013 川崎市多摩区登戸新町31-8 TEL044-299-9184

長崎県壱岐の島、癒しとくつろぎの宿

かねや別館

長崎県壱岐市芦辺町諸吉大石 472-12
TEL 0920-45-0350 FAX 0920-45-3551
ホームページ http://www.iki-kaneya.com

うまか料理

活きのよか壱州の魚
美味い壱岐の焼酎
息・抜・き・所

「壱岐」

〒168-0062 東京都杉並区方南2-18-13
もしもし 03-5378-2226
丸の内線 方南町駅より徒歩1分

関東初山会

初山出身者の方、親睦会への
ご参加を心よりお待ち申し上げます

会長 長嶋文満
他 役員一同

事務局 〒261-0003
千葉市美浜区高浜4-10-10-204
TEL 043-278-6246

壱岐とともに60年

東京渡良会

会長 山本紘子

〒270-1142 千葉県我孫子市泉38-1-101

幹事長 高田英志
TEL & FAX：04-7139-3862

奥壱岐の千年湯

平山旅館

女将 平山宏美

電話 0920-43-0016

http://www.iki.co.jp

故郷のお土産に
・壱岐の銘菓 加寿まき
・焼酎入りケーキ

土肥製菓

〒811-5511 壱岐市勝本町仲触471
電話 0920-42-0207
FAX 0920-42-2372

モンドセレクション 13年連続受賞蔵

麦焼酎発祥の地『壱岐』 本格焼酎

松永安左エ門翁
720mℓ（43度）

壱岐スーパーゴールド
720mℓ（22度）

壱岐グリーン
720mℓ（20度）

むぎ焼酎壱岐
1.8L（25度）

むぎ焼酎 壱岐 玄海酒造株式会社

取締役会長 山内 賢明　取締役社長 山内 昭人　取締役副社長 山内 博達

〒811-5125 長崎県壱岐市郷ノ浦町志原西触550-1
TEL.0920-47-0160　FAX.0920-47-0211　www.mugishochu-iki.com

◎お酒は20歳になってから。 ◎お酒は適量を。 ◎妊娠中・授乳期の飲酒には気をつけましょう。

壱岐麦焼酎

かめ仕込み 山乃守

有限会社 山の守酒造場

取締役会長 山内 賢明　取締役社長 山内 昭人
取締役副社長 山内 博達

〒811-5125 長崎県壱岐市郷ノ浦町志原西触85
TEL.0920-47-0301　FAX.0920-47-0384

本格焼酎

山乃守 25度 1800mℓ

◎お酒は20歳になってから。

お酒は20歳になってから

世界の銘酒「壱岐焼酎」

麦焼酎発祥の地が産んだ世界ブランド

壱岐酒造協同組合

理 事 長　伊豆　　平
副理事長　山内　昭人

壱岐の塩

きらめく海から生まれたこだわりの塩

壱岐の塩・天然にがり

周囲を海で囲まれた美しい島、長崎県壱岐。
人々の生活や自然に昔ながらの風情を残しています。
「壱岐の塩」は壱岐のきらめく海水をくみあげ、
平釜でじっくり煮詰めた手作り塩です。

株式会社　なかはら

NAKAHARA

長崎県壱岐市芦辺町箱崎中山触828－1
TEL 0920－45－4888 FAX 0920－45－4560
フリーダイヤル 0120－611－401

公正で正確な報道
壱岐の島の情報

壱岐新報

ご購読の申し込み先

〒811-5133　壱岐市郷ノ浦町片原触 247-7
（株）壱岐新報社
TEL・FAX 0920-47-3196
ホームページ　http://ikishinpou.com
E-mail　ikisinpou@oboe.ocn.ne.jp

安らぎの島壱岐

諸津観音

長崎県壱岐市芦辺町箱崎諸津触

あいわ特許業務法人

所長
弁理士 白石光男
（郷ノ浦町物部出身）

〒104-0045　東京都中央区築地１丁目12番22号
コンワビル４階
TEL. 03(3524)3911
FAX. 03(3524)3912
E-mail:aiwa@aiwa-patent.jp
URL http://www.aiwa-patent.jp

壱岐新聞

壱岐島を元気にするメディア!

壱岐新聞社
代表 山内武志

◎壱岐新聞のご購読・お問い合わせは…
☎0920-48-1860
〒811-5132
長崎県壱岐市郷ノ浦町東触 942-1
FAX 0920-48-1265
http://ikishinbun.jp/
E-mail：info@ikishinbun.jp

～宇宙の技術を暮らしの中へ～

特殊セラミックの断熱塗料剤「ガイナ」
総合ビルメンテナンス業

〒144-0031
東京都大田区東蒲田二丁目6番16号

株式会社クラカタ商事

代表取締役　山　本　　昇

URL：http://www.kurakata.co.jp

株式会社 壱岐カントリー倶楽部

代表取締役　森山　興邦
理事長　　山内　賢明

〒811-5533 壱岐市勝本町新城西触1645
TEL:0920-42-1028 FAX:0920-42-2274

〈東京壱岐雪州会〉の来歴

平成24年の創立95周年機に現名称に

東京壱岐雪州会は長崎県壱岐市出身者の関東地区における親睦団体です。１９１７年の創立以来今年で97周年の歴史を刻んでいます。

最初は雪州会としてスタート。この名称が長く続きましたが、福岡、関西、中部（現東海）壱岐人会でも一時期「○○雪州会」とし、本家の雪州会でも「東京」を冠して「東京雪州会」として長期間親しまれて来ました。ただ東京以外は名称から「雪州会」を外して「○○壱岐の会」に変更しています。

雪州会の対外活動も年々盛んになり「東京雪州会」では壱岐出身者の団体であることが外部に分かりづらい。そこで２０１２年の創立95周年を機に「東京壱岐雪州会」に変更。「壱岐」を名称に入れて積極的にＰＲすることにしました。同時に創立時から続く伝統ある「雪州会」の名称も残したわけです。

玄界灘に位置する壱岐の島は古事記の時代から「大八州」（おおやしま）の一つに数えられ、日本書紀では「壱岐の州」または「壱岐の島」と表記し、いずれも「ゆきのしま」と読ませているそうです。雪州会の名称の由来は諸説ありますが、多くの古書による読み方に由来していることはほぼ確かなようです。

歴代会長＝初代三富道真、2代松永安左エ門（終身）、3代眞鍋儀十、4代白川応則、5代長岡元、6代松坂直美、7代後藤圀丸、8代立石公博、9代森谷正規、10代山内賢明、11代牧山康敏、12代万谷正（現）の各氏と続く。

〈故郷に誇りを　未来に夢を〉
◆「雪州会だより」42号をお届けします。

「雪州会だより」は今回からＡ４判（従来Ｂ５判）に大型化しました。記事や写真の掲載数を増やす狙いです。誌面の出来栄えは皆さんの評価に待つとして、多くの素晴らしい記事を紹介出来たと考えています。

今42号は、壱岐を訪れた島外出身の人々が、ふるさと壱岐をどう観察し、何に感激し、何を求めているのか、について尋ねました。その中で壱岐に移住して18年になる神山さんの話は大変味わい深い。また相川長崎県人会長による壱岐歴史探訪の奥深さには敬服。山田長崎県東京事務所長による最先端情報基地での壱岐情報の発信と合わせ、大変心強い限りです。

さらに玉木東京諫早会幹事長の壱岐の歴史認識の深さと壱岐への愛着、農協ツアーに参加された吉川さんの話など壱岐観光に対する示唆に富む有り難い提言も含まれています。壱岐の方々にも多くの「生のふるさと情報」をご紹介いただき、また会員の皆さんにも大変興味深いお話をご寄稿いただいた。

広告面でも壱岐を始め各方面の皆さんのご協賛を得ました。多くの方々に支えられてこの会報が出来ていることを実感します。皆さんのご支援に改めて厚く御礼申し上げます。有り難うございました。

今ふるさと壱岐は、あの夏の酷暑や長雨を癒すが如く、秋の装いを深めつつ、田畑も森も次の営みに備えていることでしょう。しかし人々の活動は続きます。私は今年10月をもって会長職4年の任期を終えることになりました。副幹事長・幹事長・会長含め長期にわたり皆様のご協力・励ましに感謝しつつ…。

（牧山　康敏）

雪州会だより・第42号／平成26年10月発行／制作・東京壱岐雪州会
発行所・〒100-0005 東京都千代田区丸の内三丁目3番1号 新東京ビル ㈱ファウンテック内
東京壱岐雪州会事務局　Tel 03(5218)8291　Fax 03(3214)8091
URL:http://www.sesshuukai.com/

非鉄金属用フラックスのトップメーカー

FOUNTEC　株式会社ファウンテック

代表取締役　万　谷　　正

〒100－0005　東京都千代田区丸の内三丁目３番１号　新東京ビル

TEL　03-5218-8291　　FAX　03-3214-8091

URL　http://www.fountec.co.jp　　E-Mail　fountec@foutec.co.jp

営業所：東　京　東京都千代田区丸の内三丁目３番１号　新東京ビル
名古屋　名古屋市中区錦１－20－19　名神ビル７Ｆ
大　阪　大阪市淀川区西中島５－２－５　中島第２ビル408
九　州　福岡市博多区博多駅前２－17－15　NPC ビル３Ｆ
技術部：　名古屋市中区錦１－20－19　名神ビル７Ｆ
工　場：奈　良　奈良県御所市室493
栃　木　栃木県鹿沼市茂呂2611－12

（見ないと、損）

いい部屋、

増やしています。

レオパレス21

株式会社 レオパレス21 本社：〒164-8622 東京都中野区本町2-54-11 TEL：03-5350-0001（代表） レオパレス 検索